



'91学生募集要項

KANAZAWA UNIVERSITY

平成3年度

金沢大学

目 次

〔平成3年度金沢大学入学者選抜試験〕

- 1 平成3年度入学者の選抜 1
- 2 出願資格 1

〔A日程・前期日程・推薦入学〕

- 1 募 集 人 員 4
- 2 入学者選抜方法等
 - (1) 入学者選抜方法 6
 - (2) 学内併願 6
 - (3) 第2志望 6
 - (4) 平成3年度入学者選抜の実施教科・科目等について 7
 - (5) 実技検査 13
 - (6) 配点 17
 - (7) 試験期日及び試験時間割 19
 - (8) 試験場 20
 - (9) 健康診断 20
- 3 出 願 期 間 20
- 4 出 願 手 続
 - (1) 出願方法 21
 - (2) 出願に必要な書類等 22
 - (3) 出願書類等の提出先 23
 - (4) 入学志願票等記入要領 23
- 5 身体に障害のある者の出願 27
- 6 受験票等の送付 27
- 7 合 格 者 発 表 27
- 8 欠員補充の方法 28
- 9 入 学 手 続 28
- 10 特別選抜方法（推薦入学）
 - 教育学部 中学校教員養成課程（技術）... 30
 - 教育学部 高等学校教員養成課程（保健体育） 32
 - 教育学部 スポーツ科学課程 34
 - 経済学部 経済学科 36
 - 工学部 電気・情報工学科 38
- 11 外国人特別学生（私費外国人留学生）の入学者選抜 40
- 12 入学試験に関する問い合わせ 43
- 13 情報提供（テレフォンサービス） 43

〔後 期 日 程〕

- 1 募 集 人 員 46
- 2 入学者選抜方法等
 - (1) 入学者選抜方法 47
 - (2) 学内併願 47
 - (3) 2段階選抜 47
 - (4) 第2志望 47

- (5) 平成3年度入学者選抜の実施教科・科目等について 48
- (6) 配点 50
- (7) 試験期日及び試験時間割 51
- (8) 試験場 52
- (9) 健康診断 52
- 3 出 願 期 間 53
- 4 出 願 手 続
 - (1) 出願方法 53
 - (2) 出願に必要な書類等 54
 - (3) 出願書類等の提出先 55
 - (4) 入学志願票等記入要領 55
- 5 身体に障害のある者の出願 57
- 6 受験票等の送付 57
- 7 合 格 者 発 表 57
- 8 欠員補充の方法 58
- 9 入 学 手 続 58
- 10 入学試験に関する問い合わせ 59
- 11 情報提供（テレフォンサービス） 59

〔学 生 生 活〕

- 1 入学時に必要な経費 62
- 2 入学料免除に関する取扱い 62
- 3 授業料免除に関する取扱い 63
- 4 奨学制度について 65
- 5 学 生 寮 65
- 6 下宿・貸間等の紹介 66
- 7 アルバイト 66
- 8 保健管理センター 66
- 9 学生健康保険組合 67
- 10 学生教育研究災害傷害保険 67
- 11 卒業後の進路 68

〔金沢大学案内〕

- 本学の概要 71
- 教養部、学部及び大学院の概要
 - 教 養 部 72
 - 文 学 部 73
 - 教 育 学 部 77
 - 法 学 部 80
 - 経 済 学 部 82
 - 理 学 部 84
 - 医 学 部 88
 - 薬 学 部 89
 - 工 学 部 91
 - 大学院自然科学研究科 95
- 受験者の宿泊 裏表紙
- 募集要項請求方法 裏表紙

1 平成3年度入学者の選抜

本学における入学者の選抜は、次のとおり行う。

(1) 一般選抜

○連続方式（A日程）で個別学力検査等を行う学部

文学部，教育学部，法学部，医学部

○分離・分割方式（前期日程・後期日程）で個別学力検査等を行う学部

経済学部，理学部，薬学部，工学部

(2) 特別選抜

○推薦入学を行う学部・学科（課程）

教育学部 中学校教員養成課程〔技術〕

教育学部 高等学校教員養成課程（保健体育）

教育学部 スポーツ科学課程

経済学部 経済学科

工学部 電気・情報工学科

(3) 外国人特別学生（私費外国人留学生）の選抜

2 出 願 資 格

次のいずれかに該当し、平成3年度大学入学選抜大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の受験を要する教科（A日程・前期日程・推薦入学は7～12ページ「2 入学選抜方法等の(4)平成3年度入学選抜の実施教科・科目等について」、後期日程は48～49ページ「2 入学選抜方法等の(5)平成3年度入学選抜の実施教科・科目等について」）を全て受験した者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者及び平成3年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成3年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第69条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成3年3月31日までにこれに該当する見込みの者

- ① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成3年3月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部大臣の指定したもの
- ② 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成3年3月31日までに修了見込みの者
- ③ 文部大臣の指定した者

主なものは、次のとおり

ア 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による小学校，中学校若しくは高等学校の教諭の普通免許状を有する者又は教育職員免許法施行法（昭和24年法律第148号）によりこ

1 募集人員

学部 (日程)	学 科 (課 程)	募 集 人 員			備 考
		計	推薦入学	A 日 程 前期日程	
文学部 (A日程)	行 動 科 学 科	50	—	50	
	史 学 科	45	—	45	
	文 学 科	60	—	60	
	計	155	—	155	
教育学部 (A日程)	小 学 校 教 員 養 成 課 程	100	—	100	中学校教員養成課程及び養護学校教員養成課程(中学部)の〔 〕内は、専攻教科を示す。
	中 学 校 教 員 養 成 課 程 〔国語・社会・数学・理科・英語…各約 6名 音楽・美術・技術・家庭…各約 4名 保健・職業…各約 2名〕	50	2名以内	48	
	高等学校教員養成課程(保健体育)	20	4名以内	16	
	聾 学 校 教 員 養 成 課 程	15	—	15	
	養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 (小 学 部)	15	—	15	
	養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 (中 学 部) 〔国語・社会・理科・音楽・職業〕	5	—	5	
	言 語 障 害 児 教 育 教 員 養 成 課 程	20	—	20	
	総 合 科 学 課 程 〔文化科学コース……………10名 自然科学コース……………20名 人間科学コース……………10名〕	40	—	40	
	ス ポ ー ツ 科 学 課 程	30	6名以内	24	
	計	295	12名以内	283	
法学部 (A日程)	法 学 科	200	—	200	
経済学部 (前期日程)	経 済 学 科	I 群	170	約80名	合格者は、I 群とII群とを合わせて発表する。
		II 群		約80名	

学部 (日程)	学 科 (課 程)	募 集 人 員			備 考
		計	推薦入学	A 日 程 前期日程	
理学部 (前期日程)	数 学 科	30	—	30	
	物 理 学 科	30	—	30	
	化 学 科	30	—	30	
	生 物 学 科	20	—	20	
	地 学 科	20	—	20	
	計	130	—	130	
医学部 (A日程)	医 学 科	100	—	100	
薬学部 (前期日程)	薬 学 科	35	—	35	
	製 薬 化 学 科	35	—	35	
	計	70	—	70	
工学部 (前期日程)	土 木 建 設 工 学 科	93	—	93	工業教員養成課程の15名は、土木建設工学科(3名)、機械システム工学科(4名)、物質化学工学科(5名)、電気・情報工学科(3名)に含めて募集する。
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	134	—	134	
	物 質 化 学 工 学 科	100	—	100	
	電 気 ・ 情 報 工 学 科	93	10名以内	83	
	計	420	10名以内	410	
合 計		1,540	32名以内	1,508	

- 注 (1) 上記募集人員について増員〔理学部8名程度(地学科8名)〕を計画している。平成3年度予算の関係で現在は未確定であるが、この詳細は政府予算案の決定後(平成3年1月頃)発表する予定である。
- (2) 経済学部、工学部の推薦入学の募集人員は、前期日程として取り扱う。
- (3) 経済学部のI群とII群については、7ページの「(4)平成3年度入学者選抜の実施教科・科目等について」及び17ページの「(6)配点」を参照すること。
- (4) 推薦入学については、30ページに詳細を記載してある。
- (5) 工学部の電気・情報工学科の推薦入学募集人員(10名以内)には、工業教員養成課程の学生を含まない。

2 入学者選抜方法等

A日程並びに前期日程で個別学力検査等を行う学部は、次のとおり行う。

なお、特別選抜方法（推薦入学）並びに外国人特別学生（私費外国人留学生）については、30ページ～42ページを参照すること。

(1) 入学者選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験並びに本学が行う個別学力検査等、調査書の審査及び健康診断の結果を総合して行う。

- ① 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等、個別学力検査等及び健康診断の詳細については、「(4)平成3年度入学者選抜の実施教科・科目等について」から「(9)健康診断」までの各項をそれぞれ参照すること。
- ② 大学入試センター試験及び個別学力検査等で、志望する学部・学科（課程）が課す教科・科目のすべてを受験しなければ、失格とする。

(2) 学内併願

本学では、日程の異なった学部間及び同一学部内学科間の併願を認める。

ただし、「A日程」と「前期日程」、「同一日程間」の併願はできないので注意すること。

(3) 第2志望

教育学部の一部の課程及び薬学部の志願者については、次のとおり他の学科・課程を第2志望とすることができる。

○教育学部

高等学校教員養成課程（保健体育）及びスポーツ科学課程の志願者は、互いに他を第2志望とすることができる。（推薦入学については、第2志望を認めていないので注意すること。）

○薬学部

薬学科及び製薬化学科の志願者は、互いに他の学科を第2志望とすることができる。

(4) 平成3年度入学者選抜の実施教科・科目等について

学部（学科、課程、専攻等）名		入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選 抜 の 対 象	大学入試センター 試験で入学志願者 に解答させる教科 ・科目名	個別学力検査等 の教科・科目等	大学入 試セン ター試 験の利用 方法	そ の 他
文 学 部	A 日 程	行 動 学 科 科	一般選抜の全部	国 社（倫、日、世、 地理、現社から 1） 数（「数Ⅰ」と「数 Ⅱ、簿、工から 1」） 理（物、化、生、 地学、理Ⅰから 1） 外（英、独、仏か ら1）	国（国Ⅰ、国Ⅱ） 外（英「英Ⅱ、 英ⅡB、英Ⅱ C」、独から 1）	17ペー ジ 「(6)配 点」を 参照す ること	◎ 大学入試 センター試 験の理科を 1科目選択 受験しなけ ればならな い学部・学 科（課程） 等において 、複数の 科目を受験 した受験者 の成績は、 最高得点の ものを本人 の成績とす る。 ◎ 各教科と も受験科目 数が複数で あっても同 一試験時間 内に解答さ せる。 ◎ 英Ⅱ、英 ⅡB、英Ⅱ Cの3科目 を合わせて 出題する。 ドイツ語 の出題範囲 は、英語に 準ずる。
	文 学 科 科	国 社（倫、日、世、 地理、現社から 1） 数（数Ⅰ） 理（物、化、生、 地学、理Ⅰから 1） 外（英、独、仏か ら1）					
教 育 学 部	A 日 程	小 学 校 教 員 養 成 課 程 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程（小学部） 言 語 障 害 児 教 育 教 員 養 成 課 程	一般選抜の全部	国 社（倫、日、世、 地理、現社から 1） 数（「数Ⅰ」と「数 Ⅱ、簿、工から 1」） 理（物、化、生、 地学、理Ⅰから 1） 外（英、独、仏か ら1）	国（国Ⅰ、国Ⅱ） 数（数Ⅰ、代幾、 基解） 実技（音Ⅰ、美 Ⅰ、体から1）		
		中 学 校 教 員 養 成 課 程（国語）〔社会〕			国（国Ⅰ、国Ⅱ） 外（英「英Ⅱ、 英ⅡB、英Ⅱ C」、独から 1）		
		養 護 学 校 教 員 養 成 課 程（中学部）〔国語〕〔社会〕			数（数Ⅰ、代幾、 基解、微積、 確統）		
		中 学 校 教 員 養 成 課 程〔数学〕			数（数Ⅰ、代幾、 基解、微積、 確統） 理（物、化、生、 地学から1）		
		中 学 校 教 員 養 成 課 程〔理科〕 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程（中学部）〔理科〕	推 薦 入 学 「募集人員50人 中2人以内」	課さない	面接、小論文、 小課題		
		中 学 校 教 員 養 成 課 程〔技術〕					
		中 学 校 教 員 養 成 課 程〔家庭〕					
学 部	前期 日程	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔保健〕		国 社（倫、日、世、 地理、現社から 1） 数（「数Ⅰ」と「数 Ⅱ、簿、工から 1」） 理（物、化、生、 地学、理Ⅰから 1） 外（英、独、仏か ら1）	理（物、化、生、 地学から1） 外（英「英Ⅱ、 英ⅡB、英Ⅱ C」、独から 1） 理（生） 外（英「英Ⅱ、 英ⅡB、英Ⅱ C」、独から 1）		

入学志願者に解答させる 教科・科目名等		選 抜 の 対 象	大学入試センター 試験で入学志願者 に解答させる教科 ・科目名	個別学力検査等 の教科・科目等	大学入 試セン ター試 験の利 用方法	そ の 他
学部 (学科, 課程, 専攻等) 名						
教 育 学 部	A	中学校教員養成課程〔職業〕 養護学校教員養成課程(中学部)〔職業〕	一般選抜の全部	理(物, 化, 生, 地学から1) 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から 1)	17ペー ジ 「(6)配 点」を 参照す ること	◎ 大学入試 センター試 験の理科を 1科目選択 受験しなけ ればならな い学部・学 科(課程) 等において 、複数の 科目を受験 した受験者 の成績は、 最高得点の ものを本人 の成績とす る。 ◎ 各教科と も受験科目 数が複数で あっても同 一試験時間 内に解答さ せる。 ◎ 英II, 英 II B, 英II Cの3科目 を合わせて 出題する。 ドイツ語 の出題範囲 は、英語に 準ずる。
		中学校教員養成課程〔英語〕		国(国I, 国II) 外(英「英II, 英II B, 英II C」)		
		中学校教員養成課程〔音楽〕 養護学校教員養成課程(中学部)〔音楽〕		実技(音「音I, 音II」)		
		中学校教員養成課程〔美術〕		実技(美「美I, 美II」)		
		高等学校教員養成課程(保健体育)		実技(体)		
	日 程 合 科 学 課 程	推薦入学 「募集人員20人 中4人以内」	一般選抜の全部	面接, 小論文		
		文化科学コース		国(国I, 国II) 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から 1)		
		自然科学コース		数(「数I」と「数 II, 簿, 工から 1」) 理(物, 化, 生, 地学, 理Iから 1) 外(英, 独, 仏か ら1)		
		人間科学コース		数(数I, 代幾, 基解) 理(物, 化, 生, 地学から1) 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から 1) の3教科から2 教科を選択		
		スポーツ科学課程		国(国I, 国II) 数(数I, 代幾, 基解) 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から 1) の3教科から2 教科を選択		
		推薦入学 「募集人員30人 中6人以内」		実技(体)		
				面接, 小論文		

入学志願者に解答させる 教科・科目名等		選 抜 の 対 象	大学入試センター 試験で入学志願者 に解答させる教科 ・科目名	個別学力検査等 の教科・科目等	大学入 試セン ター試 験の利 用方法	そ の 他
学部 (学科, 課程, 専攻等) 名						
法 学 部	A	法 学 科	一般選抜の全部	国(倫, 日, 世, 地理, 現社から 1) 数(「数I」と「数 II, 簿, 工から 1」) 理(物, 化, 生, 地学, 理Iから 1) 外(英, 独, 仏か ら1)	国(国I, 国II) 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から 1)	17ペー ジ 「(6)配 点」を 参照す ること
	経 済 学 部	経 済 学 科	一般選抜の全部	国(倫, 日, 世, 地理, 現社から 1) 数(「数I」と「数 II, 簿, 工から 1」) 理(物, 化, 生, 地学, 理Iから 1) 外(英, 独, 仏か ら1)	I 群 社(日, 世, 政経, 地 理から 1) 〔解答は論 述式を中心 とする。〕 II 群 国(国I, 国II), 数(数I, 代幾, 基 解)及び 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独 から1) の3教科か ら2教科を 選択	
	理 学 部	数 学 科	一般選抜の全部	国(倫, 日, 世, 地理, 現社から 1) 数(「数I」と「数 II, 簿, 工から 1」) 理(物, 化, 生, 地学, 理Iから 1) 外(英, 独, 仏か ら1)	課さない 面接, 小論文	
理 学 部	前 期 日 程	数 学 科	一般選抜の全部	国(倫, 日, 世, 地理, 現社から 1) 数(「数I」と「数 II, 簿, 工から 1」) 理(物, 化, 生, 地学, 理Iから 1) 外(英, 独, 仏か ら1)	数(数I, 代幾, 基解, 微積, 確統) 理(物, 化, 生, 地学から1)	◎ 大学入試 センター試 験の理科を 1科目選択 受験しなけ ればならな い学部・学 科(課程) 等において 、複数の 科目を受験 した受験者 の成績は、 最高得点の ものを本人 の成績とす る。 ◎ 各教科と も受験科目 数が複数で あっても同 一試験時間 内に解答さ せる。 ◎ 英II, 英 II B, 英II Cの3科目 を合わせて 出題する。 ドイツ語 の出題範囲 は、英語に 準ずる。
	後 期 日 程	物 理 学 科	一般選抜の全部	国(倫, 日, 世, 地理, 現社から 1) 数(「数I」と「数 II, 簿, 工から 1」) 理(物, 化, 生, 地学, 理Iから 1) 外(英, 独, 仏か ら1)	数(数I, 代幾, 基解, 微積, 確統) 理(物)	

入学志願者に解答させる 教科・科目名等		選 抜 の 対 象	大学入試センター 試験で入学志願者 に解答させる教科 ・科目名	個別学力検査等 の教科・科目等	大学入 試セン ター試 験の利 用方法	そ の 他
学部（学科，課程，専攻等）名						
理 学 部 程	化 学 科	一般選抜の全部	国 社（倫，日，世， 地理，現社から 1） 数（「数Ⅰ」と「数 Ⅱ，簿，工から 1」） 理（物，化） 外（英，独，仏か ら1）	数（数Ⅰ，代幾， 基解，微積， 確統） 理（化）	17ペー ジ「(6)配 点」を 参照す ること	◎ 大学入試 センター試 験の理科を 1科目選択 受験しなけ ればならな い学部・学 科（課程） 等において，複数の 科目を受験 した受験者 の成績は， 最高得点の ものを本人 の成績とす る。 ◎ 各教科と も受験科目 数が複数で あっても同 一試験時間 内に解答さ せる。 ◎ 英Ⅱ，英 ⅡB，英Ⅱ Cの3科目 を合わせて 出題する。 ドイツ語 の出題範囲 は，英語に 準ずる。
	生 物 学 科	一般選抜の全部	国 社（倫，日，世， 地理，現社から 1） 数（「数Ⅰ」と「数 Ⅱ，簿，工から 1」） 理（物，化，生， 地学，理Ⅰから 1） 外（英，独，仏か ら1）	数（数Ⅰ，代幾， 基解，微積， 確統） 理（物，化，生， 地学から1） ただし，大学 入試センター試 験で生物を受 験しなかった者は 必ず生物を受 験すること。		
	地 学 科	一般選抜の全部	国 社（倫，日，世， 地理，現社から 1） 数（「数Ⅰ」と「数 Ⅱ，簿，工から 1」） 理（物，化，生， 地学，理Ⅰから 1） 外（英，独，仏か ら1）	数（数Ⅰ，代幾， 基解，微積， 確統） 理（物，化，生， 地学から1）		
	医 学 科	一般選抜の全部	国 社（倫，日，世， 地理，現社から 1） 数（「数Ⅰ」と「数 Ⅱ，簿，工から 1」） 理（物，化，生， 地学，理Ⅰから 1） 外（英，独，仏か ら1）	数（数Ⅰ，代幾， 基解，微積， 確統） 理（物，化） 外（英「英Ⅱ， 英ⅡB，英Ⅱ C」，独から 1）		
薬 学 部 程	薬 学 科	一般選抜の全部	国 社（倫，日，世， 地理，現社から 1） 数（「数Ⅰ」と「数 Ⅱ，簿，工から 1」） 理（物，化，生， 地学，理Ⅰから 1） 外（英，独，仏か ら1）	理（物，化） 外（英「英Ⅱ， 英ⅡB，英Ⅱ C」）		

入学志願者に解答させる 教科・科目名等		選 抜 の 対 象	大学入試センター 試験で入学志願者 に解答させる教科 ・科目名	個別学力検査等 の教科・科目等	大学入 試セン ター試 験の利 用方法	そ の 他
学部（学科，課程，専攻等）名						
工 学 部 程	土 木 建 設 工 学 科	一般選抜の全部	国 社（倫，日，世， 地理，現社から 1） 数（「数Ⅰ」と「数 Ⅱ，簿，工から 1」） 理（物，化，生， 地学，理Ⅰから 1） 外（英，独，仏か ら1）	数（数Ⅰ，代幾， 基解，微積， 確統） 理（物，化から 1） 外（英「英Ⅱ， 英ⅡB，英Ⅱ C」，独から 1）	17ペー ジ「(6)配 点」を 参照す ること	◎ 大学入試 センター試 験の理科を 1科目選択 受験しなけ ればならな い学部・学 科（課程） 等において，複数の 科目を受験 した受験者 の成績は， 最高得点の ものを本人 の成績とす る。 ◎ 各教科と も受験科目 数が複数で あっても同 一試験時間 内に解答さ せる。 ◎ 英Ⅱ，英 ⅡB，英Ⅱ Cの3科目 を合わせて 出題する。 ドイツ語 の出題範囲 は，英語に 準ずる。
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	一般選抜の全部	国 社（倫，日，世， 地理，現社から 1） 数（「数Ⅰ」と「数 Ⅱ，簿，工から 1」） 理（物，化，生， 地学，理Ⅰから 1） 外（英，独，仏か ら1）	数（数Ⅰ，代幾， 基解，微積， 確統） 理（物） 外（英「英Ⅱ， 英ⅡB，英Ⅱ C」，独から 1）		
	日 物 質 化 学 工 学 科	一般選抜の全部	国 社（倫，日，世， 地理，現社から 1） 数（「数Ⅰ」と「数 Ⅱ，簿，工から 1」） 理（物，化，生， 地学，理Ⅰから 1） 外（英，独，仏か ら1）	数（数Ⅰ，代幾， 基解，微積， 確統） 理（物，化から 1） 外（英「英Ⅱ， 英ⅡB，英Ⅱ C」，独から 1）		
	電 気 ・ 情 報 工 学 科	一般選抜の全部	国 社（倫，日，世， 地理，現社から 1） 数（「数Ⅰ」と「数 Ⅱ，簿，工から 1」） 理（物，化，生， 地学，理Ⅰから 1） 外（英，独，仏か ら1）	数（数Ⅰ，代幾， 基解，微積， 確統） 理（物） 外（英「英Ⅱ， 英ⅡB，英Ⅱ C」，独から 1）		
		推 薦 入 学 「募集人員93人 中10人以内」	課さない	面接，小論文		

- 注 1. 社，理 のうち「現社」及び「理Ⅰ」を選択解答することができる者は，高等学校の普通科，理数科の卒業（見込み）者以外の者に限る。
2. 数 のうち「簿」「工」を選択解答することができる者は，高等学校において，「簿記会計Ⅰ」「簿記会計Ⅱ」又は「工業数理」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込み）者に限る。
3. 大学入試センター試験科目については，出願に際し特に次の事項に注意すること。
- 志願する学部・学科（課程）が課す教科・科目が実際受験した教科・科目と一致すること。
 - 「現代社会」，「理科Ⅰ」，「簿記会計Ⅰ・Ⅱ」，「工業数理」を選択受験できるものは，上記1，2に示すとおり

である。

備考 個別学力検査等の教科・科目等は、表中次のとおり略記した。

国語・・・国Ⅰ（国語Ⅰ），国Ⅱ（国語Ⅱ）

社会・・・日（日本史），世（世界史），政経（政治・経済）

数学・・・数Ⅰ（数学Ⅰ），代幾（代数・幾何），基解（基礎解析），微積（微分・積分），確統（確率・統計）

理科・・・物（物理），化（化学），生（生物）

外国語・・・英（英語） — 英Ⅱ（英語Ⅱ），英ⅡB（英語ⅡB），英ⅡC（英語ⅡC）

独（ドイツ語）

実技・・・体（体育実技），音Ⅰ（音楽Ⅰ），音Ⅱ（音楽Ⅱ），美Ⅰ（美術Ⅰ），美Ⅱ（美術Ⅱ）

(5) 実技検査

教育学部の一部の課程で実施する実技検査の範囲と方法は、次のとおりである。

- ① 小学校教員養成課程，壘学校教員養成課程，養護学校教員養成課程（小学部）及び言語障害児教育教員養成課程の志願者は，次の「音楽実技・美術実技・体育実技」のうちから，一つを選んで受験しなければならない。

ア 音楽実技

弾き歌い

次の課題曲を，ピアノで伴奏しながら歌う。

ローレライ F.Silcher作曲 近藤 朔風 訳詞

- (注) 1 教育学部で指定した楽譜（教務係で交付）を使用すること。ただし，声域に合わない場合は，移調してもよい。

なお，指定楽譜の郵送を希望する者は，「ローレライ」と明記し，返信用封筒（定形封筒で62円切手をはり付け，あて先を明記したもの）を同封の上，下記あてに申し込むこと。

〒920 金沢市丸の内1番1号

金沢大学教育学部教務係

- 2 演奏は，暗譜でもよいし，楽譜を使用してもよい。

イ 美術実技

鉛筆写生画

用具として，鉛筆，消しゴムを持参すること。

ウ 体育実技

次の検査を実施する。

(a) 基礎的運動能力検査

○反復横跳び

○なわとび

(b) 運動技能検査

○サッカー（男子）

○バスケットボール（女子）

○器械運動（低鉄棒）

- (注) 検査に適した服装及び運動靴を準備すること。なお，とびなわは大学で準備したものをを使用すること。

- ② 中学校教員養成課程音楽専攻及び養護学校教員養成課程（中学部）音楽専攻の志願者は、次表のうち、ア、イ、ウ、エのいずれか一つの系列を選び、その○印を付してある種目を受験しなければならない。

種 目		系 列			
		ア	イ	ウ	エ
声 楽	(a) コールユーブンゲン	○	○	○	○
	(b) 歌 曲 A	○			
	(c) 歌 曲 B		○	○	○
	(d) 歌 曲 C	○			
器 楽	(a) ピアノ I	○		○	○
	(b) ピアノ II		○		
	(c) ピアノ III		○		
	(d) 管 楽 器			○	
	(e) 弦 楽 器				○

ア 声 楽

(a) コールユーブンゲン 第1巻 原書番号No.4・8～No.8・5のうちから当日指定する。

(b) 歌 曲 A 次の6曲のうちから任意の1曲

イタリア歌曲

- Lasciatemi morire
○ Se tu della mia morte

C. Monteverdi

A. Scarlatti

日本歌曲

- 北 秋 の
○ かやの木山

信 時 潔

山 田 耕 筈

ドイツ歌曲

- An Chloë
○ Sonntag

W. A. Mozart

J. Brahms

(c) 歌 曲 B 次の6曲のうちから任意の1曲

イタリア歌曲

- Caro mio ben
○ Nel cor più non mi sento

G. Giordani

G. Paisiello

日本歌曲

- 平 城 山
○ こ の 道

平 井 康三郎

山 田 耕 筈

ドイツ歌曲

- Ich liebe dich
○ An die Musik

L. v. Beethoven

F. Schubert

(d) 歌 曲 C

自由選択歌曲（日本歌曲も含む）を1曲

ただし、歌曲A、Bの12曲以外の曲で、約3分以内に歌い終わるもの。

(注) 1 コールユーブンゲンは固定ド唱法、移動ド唱法のどちらでもよい。また、移調してもよい。

2 歌曲A、B、Cの歌詞は、原語とする。

3 歌曲A、B、Cにおいては、調は自由とする。

各自使用の調の伴奏楽譜のコピーを、出願書類と同時に提出すること。

イ 器 楽

(a) ピアノ I

J. S. Bach インヴェンションより 第13番 BWV 784 イ短調

(b) ピアノ II

J. S. Bach シンフォニアより 第1番 BWV 787 ハ長調

(c) ピアノ III

W. A. Mozart又はL. v. Beethovenのソナタから任意の1曲の第1楽章又は終楽章。ただし、楽章全体が緩徐なものを除く。

(d) 管 楽 器

次の楽器のうち一つを選び、独奏曲又は練習曲から任意の1曲

1. フルート 2. オーボエ 3. クラリネット 4. ファゴット
5. トランペット 6. ホルン 7. トロンボーン 8. サキソフォン

(e) 弦 楽 器

次の楽器のうち一つを選び、独奏曲又は練習曲から任意の1曲

1. ヴァイオリン 2. ヴィオラ 3. チェロ 4. コントラバス

(注) 1 演奏は、ピアノ・管楽器・弦楽器とも繰り返しを行わないこと。

2 管楽器・弦楽器とも伴奏をつけない。

3 管楽器・弦楽器の受験者は、演奏する曲が多楽章の場合は、そのうちから任意の楽章一つを選んで弾く。ただし、楽章全体が緩徐なものを除く。

4 管楽器・弦楽器の受験者は、演奏する楽譜のコピーを出願書類と同時に提出すること。

5 管楽器・弦楽器の受験者は、原則として楽器を各自持参すること。ただし、コントラバスは持参しなくてもよい。

◎ 歌曲Cは、暗譜とする。それ以外は暗譜でもよいし、楽譜を使用してもよい。声楽・器楽とも楽譜を必要とするものは、各自持参すること。

③ 中学校教員養成課程美術専攻の志願者は、次の美術実技ア（午前）、美術実技イ（午後）を共に受験しなければならない。

ア 石膏像鉛筆デッサン

イ 色彩構成

用具として、鉛筆、消しゴム、ポスターカラー、パレット又は絵具皿、図案筆を持参すること。

- ④ 高等学校教員養成課程（保健体育）及びスポーツ科学課程の志願者は、次の体育実技（ア、イ）を受験しなければならない。

ア 基礎的運動能力検査（持久走を含む。）

イ 運動技能検査

次の種目のうちから、一つを選んで受験すること。男女とも種目の選択は自由とする。

種 目 名
器械運動・陸上競技・柔 道・剣 道・ダンス・水泳（競泳）・バスケットボール・バレーボール・ハンドボール・サッカー・ラグビー・野 球・ソフトボール・硬式テニス・軟式テニス・卓 球・バドミントン

（注）それぞれの検査に適した各自の用具、服装及び運動靴を準備すること。
ただし、剣道防具については大学で準備するが、各自のものを使用してもよい。

(6) 配 点

大学入試センター試験（大試と略す）及び個別学力検査等（個別と略す）の配点は、次のとおりである。

学部・学科（課程）	配点 区分	教 科 等								合計
		国語	社会	数学	理科	外国語	実技	小論文	面接	
文学部（A日程）	行 動 科 学 科	大試	200	200	200	200	—	—	—	1,000
		個別	200	—	—	200	—	—	—	400
	史 学 科	大試	200	300	200	100	200	—	—	1,000
		個別	300	—	—	—	300	—	—	600
	文 学 科	大試	200	100	100	100	200	—	—	700
		個別	200	—	—	—	200	—	—	400
教育学部（A日程）	小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 （小学部） 言語障害児教育教員養成課程	大試	200	100	200	100	200	—	—	800
		個別	200	—	200	—	—	200	—	600
	中学校教員養成課程〔国語〕 養護学校教員養成課程 （中学部）〔国語〕	大試	200	200	100	100	200	—	—	800
		個別	400	—	—	—	200	—	—	600
	中学校教員養成課程〔社会〕 養護学校教員養成課程 （中学部）〔社会〕	大試	160	160	160	160	160	—	—	800
		個別	200	—	—	—	200	—	—	400
	中学校教員養成課程〔数学〕	大試	200	100	200	100	200	—	—	800
		個別	—	—	400	—	—	—	—	400
	中学校教員養成課程〔理科、技術〕 養護学校教員養成課程 （中学部）〔理科〕	大試	160	160	160	160	160	—	—	800
		個別	—	—	300	300	—	—	—	600
	中学校教員養成課程〔家庭〕	大試	160	160	160	160	160	—	—	800
		個別	—	—	—	200	200	—	—	400
	中学校教員養成課程〔保健、職業〕 養護学校教員養成課程 （中学部）〔職業〕	大試	160	160	160	160	160	—	—	800
		個別	—	—	—	200	200	—	—	400
	中学校教員養成課程〔英語〕	大試	200	100	100	100	300	—	—	800
		個別	200	—	—	—	300	—	—	500
	中学校教員養成課程〔音楽、美術〕 養護学校教員養成課程 （中学部）〔音楽〕	大試	200	200	100	100	200	—	—	800
		個別	—	—	—	—	—	400	—	400
	高等学校教員養成課程 （保健体育） ス ポ ー ツ 科 学 課 程	大試	160	160	160	160	160	—	—	800
		個別	—	—	—	—	—	400	—	400

学 部 ・ 学 科 (課 程)		配点 区分	教 科 等								合計	
			国語	社会	数学	理科	外国語	実技	小論文	面接		
教育 学部 (A日程)	総 合 科 学 課 程 (文化科学コース)	大試	160	160	160	160	160	—	—	—	800	
		個別	300	—	—	—	300	—	—	—	600	
	総 合 科 学 課 程 (自然科学コース)	大試	160	160	160	160	160	—	—	—	800	
		個別	—	—	*300	*300	*300	—	—	—	600	
	総 合 科 学 課 程 (人間科学コース)	大試	160	160	160	160	160	—	—	—	800	
		個別	*300	—	*300	—	*300	—	—	—	600	
法 学 部 (A日程)		大試	160	160	160	80	160	—	—	—	720	
		個別	300	—	—	—	300	—	—	—	600	
経 済 学 部 (前期日程)		I 群	大試	200	100	200	100	200	—	—	—	800
			個別	—	400	—	—	—	—	—	—	400
		II 群	大試	200	100	200	100	200	—	—	—	800
			個別	*200	—	*200	—	*200	—	—	—	400
理 学 部 (前期日程)	数 学 科	大試	200	100	200	100	200	—	—	—	800	
		個別	—	—	400	200	—	—	—	—	600	
	物 理 学 科	大試	120	120	120	120	120	—	—	—	600	
		個別	—	—	300	300	—	—	—	—	600	
	化 学 科	大試	50	50	100	100	100	—	—	—	400	
		個別	—	—	200	200	—	—	—	—	400	
	生 物 学 科	大試	200	200	200	200	200	—	—	—	1,000	
		個別	—	—	300	300	—	—	—	—	600	
	地 学 科	大試	100	100	100	100	200	—	—	—	600	
		個別	—	—	200	200	—	—	—	—	400	
医 学 部 (A日程)		大試	100	50	100	50	100	—	—	—	400	
		個別	—	—	200	200	200	—	—	—	600	
薬 学 部 (前期日程)		大試	200	100	200	100	200	—	—	—	800	
		個別	—	—	—	400	200	—	—	—	600	
工 学 部 (前期日程)		大試	100	50	100	50	100	—	—	—	400	
		個別	—	—	200	150	150	—	—	—	500	

- 注 1 教育学部・総合科学課程(自然科学コース)の*印は、数学(300点)、理科(300点)及び外国語(300点)の3教科から2教科選択であることを示す。
- 2 教育学部・総合科学課程(人間科学コース)の*印は、国語(300点)、数学(300点)及び外国語(300点)の3教科から2教科選択であることを示す。
- 3 経済学部の前期日程II群の*印は、国語(200点)、数学(200点)及び外国語(200点)の3教科から2教科選択であることを示す。

(7) 試験期日及び試験時間割

月日(曜)		2 月 25 日 (月)			2月26日(火)
学部・学科(課程)					
文 学 部		外国語 9:20~ 10:40	国 語 11:30~ 12:50		
教 育 学 部	小学校教員養成課程 中学校教員養成課程 養護学校教員養成課程(小学部) 言語障害児教育教員養成課程		国 語 11:30~ 12:50	数 学 14:40~ 16:10	実 技 音楽 9:30~ 美術 9:30~ 11:30 体育 9:30~
	中学校教員養成課程	外国語 9:20~ 10:40 〔国語・社会 家庭・保健 職業・英語〕	国 語 11:30~ 12:50 〔国語・社会・英語〕 理 科 11:30~ 12:30 〔理科・技術・家庭 保健・職業〕	数 学 14:40~ 16:40 〔数学・理科 技術〕	注 教育学部の〔 〕 内は専攻教科を 示す。
		実 技 音楽〔音楽〕 9:30~ 美 術〔美術〕 { 9:20~12:20 13:20~16:20			
	養護学校教員養成課程(中学部)	外国語 9:20~ 10:40 〔国語・社会 職業〕	国 語 11:30~ 12:50 〔国語・社会〕 理 科 11:30~ 12:30 〔理科・職業〕	数 学 14:40~ 16:40 〔理科〕	
	実 技 音楽〔音楽〕 9:30 ~				
	高等学校教員養成課程(保健体育) スポーツ科学課程	実 技 体 育 9:30 ~			
総合科学課程	文化科学コース	外国語 9:20~ 10:40	国 語 11:30~ 12:50		
	自然科学コース	外国語 9:20~ (選択) 10:40	理 科 11:30~ (選択) 12:30	数 学 14:40~ (選択) 16:10	
	人間科学コース	外国語 9:20~ (選択) 10:40	国 語 11:30~ (選択) 12:50	数 学 14:40~ (選択) 16:10	
法 学 部		外国語 9:20~ 10:40	国 語 11:30~ 12:50		
経済学部	経済学科	I 群		社 会 11:30~ 13:00	
		II 群	外国語 9:20~ (選択) 10:40	国 語 11:30~ (選択) 12:50 数 学 14:40~ (選択) 16:10	
理 学 部			理 科 11:30~ 13:10	数 学 14:40~ 16:40	
医 学 部		外国語 9:20~ 10:40	理 科 11:30~ 13:30	数 学 14:40~ 16:40	
薬 学 部		外国語 9:20~ 10:40	理 科 11:30~ 13:30		
工 学 部		外国語 9:20~ 10:40	理 科 11:30~ 13:10	数 学 14:40~ 16:40	

(8) 試験場

各学部校舎（金沢市内）が試験場となる予定である。

なお、志願者数によっては、試験場の変更（本学教養部及び金沢市内の公立高等学校等）もあり得るので、2月5日（火）受験票送付の際に同封する「確定試験場及び試験場案内」により確認すること。

(9) 健康診断

- ① 調査書の「健康の状況」又は健康診断書によって審査し、必要と認める者については、精密検査を2月25日（月）午後本学で実施する。
- ② 精密検査の該当者には、実施に関する事項を2月25日の学力検査及び実技検査終了時まで通知する。
- ③ 精密検査の該当者が受検しない場合は、失格とする。
- ④ 調査書又は健康診断書に記載された事項が、入学後本学で実施する健康診断の結果と著しく相違し、修学に必要な条件を満たしていないことが判明した場合には、入学後であっても入学許可を取り消すことがある。
- ⑤ 学部・学科（課程）によっては、修学に耐えないと認められる疾病並びに視力障害、聴力障害、言語障害及び運動機能障害（肢体不自由）等のある者は、入学を許可しないことがある。なお、次の学部・学科（課程）は、色覚障害を合否判定の基準とはしないが、高度の異常は修学上支障を来すことがある。

教育学部 中学校教員養成課程〔理科〕

理学部 化学科、地学科

医学部 医学科

薬学部 薬学科、製薬化学科

工学部 土木建設工学科、物質化学工学科

該当する者は、出願に先立ち上記事項に留意するとともに、不明の点があれば、あらかじめ問い合わせること。

3 出願期間

平成3年1月22日（火）～平成3年1月31日（木）

受付は、日曜日を除き、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は正午まで受け付ける。

持参する場合も、郵送する場合も、平成3年1月31日（木）午後5時までに必着すること。ただし、締切日（1月31日）を過ぎて到着した郵送による願書のうち、平成3年1月29日（火）までの発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する。

◎出願状況の情報提供について

各学部・学科（課程）ごとの出願状況（志願者数及び倍率）について、次の期間中テレホンサービスで情報提供を行う。

平成3年1月22日（火）午後7時頃 ～ 2月初旬

電話番号 0762(21)7700（通話料金は有料）

4 出願手続

(1) 出願方法

志願者は、(2)の「出願に必要な書類等」（A日程・前期日程・推薦用）を一括して、本学所定の封筒に入れ、出願期間内に志願する学部提出すること。

なお、出身高等学校等で取りまとめて提出する場合も、志願者ごとに本学所定の封筒に入れて提出すること。

〔出願に当たっての注意事項〕

- ① 後期日程の出願用紙・封筒を使用してはならない。
- ② 大学入試センター試験の受験票及び成績請求票の再発行を受けた場合は、再発行された受験票及び成績請求票のみが有効である。この場合は、再発行された成績請求票により出願しなければ、失格とする。
- ③ 他の国公立大学（私立産業医科大学を含む）・学部の推薦入学合格者は、本学を受験しても入学許可は得られない（当該大学・学部の定める入学辞退手続により入学辞退し、その許可を得た者を除く）。
- ④ 出願書類に不備がある場合は、受理しないことがある。
- ⑤ 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない。
- ⑥ 出願書類に不正な事実があった場合は、入学許可を取り消すことがある。

(2) 出願に必要な書類等

①入学志願票 志願コード票 受験票 写真票	本要項に添付の用紙により作成すること 「 図 図 平成3センター試験成績請求票A日程・前期日程用」及び写真2枚をそれぞれ所定の欄にはり付けること (「(4)入学志願票等記入要領」を参照すること)
②検 定 料	13,000円 …… 郵便為替(普通為替に限る) 郵送による場合も、普通為替を出願書類に同封して提出すること なお、この普通為替の受取人指定欄、領収者欄等には、何も記入してはいけない
③検定料納付及び 領収証書用紙	本要項に添付の用紙により作成すること(切手を貼付する必要はない) 郵便はがきの部分に、郵便番号・住所・氏名を記入すること
④調 査 書	文部省所定の様式により出身学校長が作成したもの (「出欠の記録」欄で長期の欠席があった場合は、必ず備考欄にその診断名等を記入すること。「健康の状況」欄の記入にあたっては、異常がない場合又は特に記入する事項がない場合はその旨を記入すること。眼鏡等を使用している者については、矯正視力を必ず記入すること)
⑤健 康 診 断 書	平成元年3月以前の高等学校卒業生及び大学入学資格検定合格者等は、本要項に添付の用紙により視力、聴力、結核並びにその他の疾病及び異常について医師が証明し、厳封したもの (平成2年3月高等学校卒業生及び平成3年3月卒業見込みの者は、提出する必要はない)
⑥返 送 用 封 筒	受験票等送付用で、本要項に添付の封筒に、自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手(272円)をはり付けたもの
⑦合格者名簿送付 申 込 書	本要項に添付の用紙に必要事項を記入し、510円分切手を貼ること 注：合格発表(本学の合格発表は学内掲示のみとする)と同時に、志願者全員に合格者名簿(志願学部のみ)を電子郵便で送付するためのものである

教育学部の志願者については、上記のほか次の書類も提出すること。

⑧教育学部写真票	小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程(小学部)及び言語障害児教育教員養成課程の志願者 本要項に添付の用紙による。写真は、所定の欄にはり付けること(写真は①の受験票・写真票と合わせて3枚)
⑨選択系列・曲目 届	中学校教員養成課程〔音楽専攻〕及び養護学校教員養成課程(中学部)〔音楽専攻〕の志願者 本要項に添付の用紙による
⑩選 択 種 目 届	高等学校教員養成課程(保健体育)及びスポーツ科学課程の志願者 本要項に添付の用紙による

- (注) 1 外国人は、上記書類のほか、外国人登録済証明書(在留資格が明示されたもの)を添付すること。
2 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の修了者は、修了証明書及び成績証明書をもって調査書に代える。
3 文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了者は、成績証明書をもって調査書に代える。
4 大学入学資格検定試験の合格者は、合格証明書及び合格成績証明書をもって調査書に代える。
5 調査書の提出困難な学校(廃校、被災等)の出身者は、その旨を証明した書類をもって調査書に代える。

(3) 出願書類等の提出先

志 願 学 部	提 出 先
文 学 部	文学部・学生係 〒920-11 金沢市角間町
教 育 学 部	教育学部・教務係 〒920 金沢市丸の内1番1号
法 学 部	法学部・学生係 〒920-11 金沢市角間町
経 済 学 部	経済学部・学生係 〒920-11 金沢市角間町
理 学 部	理学部・学生係 〒920 金沢市丸の内1番1号
医 学 部	医学部・教務係 〒920 金沢市宝町13番1号
薬 学 部	薬学部・学生係 〒920 金沢市宝町13番1号
工 学 部	工学部・学生係 〒920 金沢市小立野2丁目40番20号

(4) 入学志願票等記入要領

入学志願票・志願コード票・受験票・写真票の「※」印欄を除き、以下の指示に従って該当事項を正確に記入すること。

① 入学志願票

(注意すべき項目)

志望学部・学科(課程)	○ 教育学部中学校教員養成課程、養護学校教員養成課程(中学部)及び総合科学課程を志願するものは、専攻教科・コース欄に志望の専攻教科・コース名を記入すること ○ 経済学部を志願する者は、出題教科・科目により分けられたI群・II群のうち該当するものを○で囲むこと
第 2 志 望	○ 教育学部の高等学校教員養成課程(保健体育)及びスポーツ科学課程の志願者で、スポーツ科学課程及び高等学校教員養成課程(保健体育)をそれぞれ第2志望とする場合は、その課程名を記入すること ○ 薬学部志願者で、薬学部の他の学科を第2志望とする場合は、当該第2志望の学科名を記入すること
工 業 教 員 養 成 課 程	○ 工学部志願者で、工業教員養成課程を志望する場合は、「有」の文字を○で囲むこと
出 願 資 格	○ 18歳以前に大学入学資格検定試験に合格した者は、18歳に達した元号の年月、また、18歳以降に合格した者は、合格した元号の年月を記入すること
選 択 受 験 科 目	○ 選択して受験する科目を課している学部・学科(課程・専攻)の志願者は、選択する科目のコード(数字)を○で囲むこと なお、次表「学部・学科(課程)別選択受験科目一覧」以外の学部・学科(課程)については、選択受験科目はないので、記入しないこと

学部・学科(課程)別選択受験科目一覧

学部・学科(課程)		科目及び科目コード
文 学 部		外国語(英語 10, ドイツ語 11)から1科目
教 育 学 部	小学校教員養成課程 聾学校教員養成課程 養護学校教員養成課程(小学部) 言語障害児教育教員養成課程	実 技(音楽 12, 美術 13, 体育14)から1科目
	中学校教員養成課程〔国語・社会〕 養護学校教員養成課程(中学部) 〔国語・社会〕	外国語(英語 10, ドイツ語 11)から1科目
	中学校教員養成課程 〔理科・技術〕 養護学校教員養成課程(中学部) 〔理科〕	理 科(物理 06, 化学 07, 生物 08, 地学09)から1科目
	中学校教員養成課程〔家庭〕	理 科(物理 06, 化学 07, 生物 08, 地学09)から1科目 外国語(英語 10, ドイツ語 11)から1科目
	中学校教員養成課程〔保健〕	外国語(英語 10, ドイツ語 11)から1科目
	中学校教員養成課程〔職業〕 養護学校教員養成課程(中学部) 〔職業〕	理 科(物理 06, 化学 07, 生物 08, 地学09)から1科目 外国語(英語 10, ドイツ語 11)から1科目
	総合科学課程	文化科学コース 外国語(英語 10, ドイツ語 11)から1科目
		自然科学コース 数学05 理 科(物理 06, 化学 07, 生物 08, 地学09)から1科目 外国語(英語 10, ドイツ語 11)から1科目 から2教科を選択する
		人間科学コース 国語15 数学05 外国語(英語 10, ドイツ語 11)から1科目 から2教科を選択する
	法 学 部	
経 済 学 部	経 済 学 科	I 群 社 会(日本史01, 世界史02, 政治・経済03, 地理04)から1科目
		II 群 国語15 数学05 外国語(英語 10, ドイツ語 11)から1科目 から2教科を選択する
理 学 部	数学科, 生物学科, 地学科	理 科(物理 06, 化学 07, 生物 08, 地学09)から1科目
医 学 部		外国語(英語 10, ドイツ語 11)から1科目
工 学 部	土 木 建 設 工 学 科	理 科(物理 06, 化学 07)から1科目
	物 質 化 学 工 学 科	外国語(英語 10, ドイツ語 11)から1科目
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科 電 気 ・ 情 報 工 学 科	外国語(英語 10, ドイツ語 11)から1科目

注 1 前表以外の学部・学科(課程)については, 選択受験科目はないので, 記入する必要はない。

2 必ず受験しなければならない科目については, 記入する必要がない。

② 志願コード票

次の票の説明に従ってコード等を記入すること。(後期日程の志願コード票については56ページを参照すること。)

区 分		説 明	コード等記入例			
②学部・学科（課程）等 次の学部・学科（課程）等コード表により記入すること 〔学部・学科（課程）等コード表〕						
学 部 ・ 学 科（課 程）			コード	学 部 ・ 学 科（課 程）		コード
文 学 部	行 動 科 学 科	111	法 学 部	法 学 科		151
	史 学 科	121	経 済 学 部	経 済 学 科	I 群	174
	文 学 科	131			II 群	175
教 育 学 部	小 学 校 教 員 養 成 課 程	701			理 学 部	数 学 科
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔国語〕	711	物 理 学 科	324		
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔社会〕	721	化 学 科	334		
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔数学〕	731	生 物 学 科	344		
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔理科〕	741	地 学 科	354		
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔英語〕	751	医 学 部	医 学 科	411	
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔音楽〕	761		薬 学 部	薬 学 科	514
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔美術〕	771			製 薬 化 学 科	554
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔技術〕	781	工 学 部	土 木 建 設 工 学 科	614	
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔家庭〕	791		機 械 シ ス テ ム 工 学 科	624	
中 学 校 教 員 養 成 課 程〔保健〕	801	物 質 化 学 工 学 科		634		
中 学 校 教 員 養 成 課 程〔職業〕	811	電 気 ・ 情 報 工 学 科		644		
高等学校教員養成課程（保健体育）	821	注 経済学部推薦入学志願者の コードは、174である。 教育学部及び工学部の推薦 入学志願者のコードは、表中 の当該学科・課程の数字であ る。				
聾 学 校 教 員 養 成 課 程	831					
養護学校教員養成課程（小学部）	841					
養護学校教員養成課程（中学部）〔国語〕	851					
養護学校教員養成課程（中学部）〔社会〕	861					
養護学校教員養成課程（中学部）〔理科〕	871	部	養護学校教員養成課程（中学部）〔音楽〕	881		
養護学校教員養成課程（中学部）〔職業〕	891					
言語障害児教育教員養成課程	951					
ス ポ ー ツ 科 学 課 程	961					
総合科学課程（文化科学コース）	971					
総合科学課程（自然科学コース）	981					
総合科学課程（人間科学コース）	991					

③成績請求票	大学入試センターから交付された「 図 平成3センター試験成績請求票A日程・前期日程用」をはり付けること なお、再交付を受けた場合は、再交付された成績請求票のみ有効である		
④第2志望 〔右表の学部・学科（課程）以外は記入しないこと〕	教育学部	○高等学校教員養成課程（保健体育）の志願者で、スポーツ科学課程を第2志望とするもの	9 6
		○スポーツ科学課程の志願者で、高等学校教員養成課程（保健体育）を第2志望とするもの	8 2
	薬学部	○薬学科の志願者で、製薬化学科を第2志望とするもの	5 5
		○製薬化学科の志願者で、薬学科を第2志望とするもの	5 1
⑤生年月日	数字が1ケタの場合は、あたみに0を記入すること 例 昭和9年1月7日 0 9 0 1 0 7		
⑥性別	男	1	
	女	2	
⑦資格取得年	高等学校卒業見込み又は卒業の元号年を記入する 昭和63年 S 6 3 平成元年 H 0 1		
⑧選択受験科目	入学志願票の「選択受験科目」欄で○印を付したコード（数字）を記入すること 1科目の場合はA欄に（B欄は空欄） 2科目の場合はA、Bの両欄に記入する 〔注〕学部・学科（課程）別選択受験科目一覧（24～25ページ）の該当者のみ記入すること 1科目 A B 1 0 2科目 A B 0 1 1 0		
⑨工業教員養成課程	工学部志願者で、入学志願票の「有」を○で囲んだ者のみ記入すること 1		

5 身体に障害のある者の出願

身体に障害のある入学志願者で、受験上及び修学上、特別な配慮を必要とする者は、出願に先立ち、下記の事項を記載した文書（様式は問わない）に医師の診断書を添えて、学生部入学主幹付入学試験係へ提出し、相談すること。

なお、身体障害者手帳を交付されている者は、その写も合わせて提出すること。

- ① 志望学部・学科（課程・専攻）
- ② 障害の種類・程度
- ③ 受験上、特別な配慮を希望する事項
- ④ 修学上、特別な配慮を希望する事項
- ⑤ 高等学校でとられていた特別措置
- ⑥ 日常生活の状況
- ⑦ その他参考となる事項

6 受験票等の送付

受験票は、確定試験場・試験場案内及び受験者心得とともに出願期間終了後の2月5日（火）に志願者あてに発送する。

〔注〕この受験票は、入学試験の際に大学入試センター試験受験票とともに、提示しなければならない。

また、入学手続の際には、提出しなければならないので紛失、汚損等のないように特に注意すること。

7 合格者発表

A日程及び前期日程合格者の受験番号及び氏名を次のとおり発表する。

なお、本学における合格発表は掲示のみとし、合格通知及び入学手続に必要な書類用紙の交付は、入学手続を行う際に直接行う。

発表日時 3月10日（日）午前10時（予定）

発表場所 本学教養部（金沢市丸の内1番1号）前掲示場

なお、志願者全員に電子郵便で志願した学部の合格者名簿を送付するので、確認すること〔電子郵便は3月10日の午後7時頃までに宛先へ配達される予定であるが、万一未着の場合は、最寄りの配達局若しくは、金沢中央郵便局第二郵便課（☎0762-24-3822）まで問い合わせること〕。

〔注〕①合格発表は、原則として大学入試センター試験受験の際の氏名で発表する。

②本学への電話等による照会には応じない。

8 欠員補充の方法

入学手続きの結果、欠員が生じた場合は、3月28日以降に「追加合格」を実施することがある。

通知は、志願票の「通知を受ける場所」へ直接行うので、不在にする場合も連絡のとれるように手配しておくこと。

なお、他の国公立大学（私立産業医科大学を含む）に入学手続きを完了した者は、それを取り消して、本学の入学手続きを行うことはできない。

9 入学手続

合格者の入学手続は、次のとおり行う。

（前 期 日 程）

- (1) 合格者は、入学手続期間内に直接来学のうえ必要な書類を提出し、所定の納付金を納入すること。

郵送による入学手続きは、受け付けない。

- (2) 入学手続期間（納入期間）

平成3年3月12日（火）、平成3年3月13日（水）

- (3) 提出書類 本学受験票

大学入試センター試験受験票（提示のみ）

- (4) 授業料等納付金

入学料 206,000円 郵便為替（普通為替に限る）

授業料（前期分）187,800円（改定予定額）

（年 額）375,600円（改定予定額）

郵便為替（普通為替に限る）

（注）① 入学料と授業料（前期分）を同時に納入する場合は、1枚の郵便為替とすること。郵便為替の受取人指定欄、領収者欄等には何も記入してはいけない。

② 授業料の納入については、希望により前期分の納入の際に後期分も合わせて納入できる制度を設ける予定である。

③ 授業料（前期分）を上記納入期間に納入しないときは、平成3年4月1日から平成3年4月30日までに納入することとなる。

④ 入学手続終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納入した者の申し出により当該授業料相当額を返還する。

- (5) 入学手続場所 本学 学生会館（金沢市丸の内1番1号）

- (6) 留意事項

① 入学手続後は、一切の変更を認めない。

② 入学手続期間内に入学手続きを完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱う。

③ 他の国公立大学（私立産業医科大学を含む）に入学手続きを行った者は、これを辞退して本

学に入学手続きを行うことはできない。

- ④ 「前期日程」に合格し、3月13日までに入学手続きを行った者は、「B日程」「後期日程」を受験してもその合格者とはならない。

- ⑤ その他入学時に必要な経費並びに入学料免除制度及び授業料免除制度については「学生生活」の項（62ページ以下）の該当事項を参照すること。

（A 日 程）

- (1) 合格者は、入学手続期間内に直接来学のうえ必要な書類を提出し、所定の納付金を納入すること。

郵送による入学手続きは、受け付けない。

- (2) 入学手続期間（納入期間）

平成3年3月26日（火）、平成3年3月27日（水）

- (3) 提出書類 本学受験票

大学入試センター試験受験票（提示のみ）

- (4) 授業料等納付金

入学料 206,000円 郵便為替（普通為替に限る）

授業料（前期分）187,800円（改定予定額）

（年 額）375,600円（改定予定額）

郵便為替（普通為替に限る）

（注）① 入学料と授業料（前期分）を同時に納入する場合は、1枚の郵便為替とすること。郵便為替の受取人指定欄、領収者欄等には何も記入してはいけない。

② 授業料の納入については、希望により前期分の納入の際に後期分も合わせて納入できる制度を設ける予定である。

③ 授業料（前期分）を上記納入期間に納入しないときは、平成3年4月1日から平成3年4月30日までに納入することとなる。

④ 入学手続終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納入した者の申し出により当該授業料相当額を返還する。

- (5) 入学手続場所 本学 学生会館（金沢市丸の内1番1号）

- (6) 留意事項

① 入学手続後は、一切の変更を認めない。

② 入学手続期間内に入学手続きを完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱う。

③ 他の国公立大学（私立産業医科大学を含む）に入学手続きを行った者は、これを辞退して本学に入学手続きを行うことはできない。

④ その他入学時に必要な経費並びに入学料免除制度及び授業料免除制度については「学生生活」の項（62ページ以下）の該当事項を参照すること。

10 特別選抜方法（推薦入学）

実施学部・課程名	教育学部 中学校教員養成課程〔技術〕
募集人員	2 名 以 内
選 抜 期 日	平成2年12月7日（金） 小論文 — 9:00 ～ 10:20 小課題 — 10:40 ～ 12:10 面接 — 13:00 ～ （注）健康診断 調査書による審査の結果、特に必要があると認めた者については、面接終了後、本学で精密検査を行う
選 抜 方 法	1 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除する。 2 選考は、小論文*1、小課題*2、面接、調査書、推薦書及び健康診断の結果を総合して行う *1 小論文 — 英文の資料を与え、それに関して出題された論題について、800字程度で論述させる。辞書は貸与する *2 小課題 — 出題された工業に関する科目の課題から1つを選び、図面、文章等で解答させる
出 願 期 間	平成2年11月22日（木）～平成2年11月28日（水） 受付時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は正午までとし、日曜日は受け付けない。持参、郵送による場合も、期限までに必着のこと
出 願 要 件	1 平成3年3月高等学校の工業に関する学科を卒業見込みの者で、かつ、高等学校における学習成績概評がA段階以上に該当し、中学校の技術科教育に熱意を有し、高等学校長が責任をもって推薦できる者とする 2 推薦は、1校に1名とする
そ の 他	1 出願手続 (1) 出願方法 (2)の提出書類は、高等学校長が取りまとめ、教育学部教務係へ提出すること。郵送の場合は、本募集要項に添付の出願用封筒の「推薦入学」を赤○で囲むこと 出 願 先 〒920 金沢市丸の内1番1号 金沢大学教育学部教務係 (2) 提出書類 ① 一般の入学志願者が提出すべき出願に必要な書類等（本募集要項22ページ。ただし、志願コード票の選択受験科目・大学入試センター試験成績請求票、合格者名簿送付申込書を除く） ② 「推薦書」（所定の用紙で高等学校長が作成したもの） ③ 「志願理由書」（所定の用紙で志願者本人が作成したもの） 「推薦書」、「志願理由書」の用紙は、高等学校長からの請求により教育学部教務係で交付する。郵送を希望する場合は、返信用封筒（角型3号）に360円切手をはり付けたものを送付すること 2 選考の結果の通知 選考の結果は、平成2年12月14日（金）付けで高等学校長を通じて受験者に通知する 3 合格者発表 平成2年12月21日（金）午後4時（予定）に教育学部掲示場で行う。 合格者には、同時に合格通知書及び入学手続きに必要な書類を送付する 4 入学手続 (1) 入学手続期間（納入期間） 平成3年2月14日（木）～2月15日（金） (2) 提出書類 本学受験票等 (3) 授業料等納付金 ①入 学 料 206,000円 郵便為替

実施学部・課程名	教育学部 中学校教員養成課程〔技術〕
そ の 他	②授 業 料（前期分） 187,800円（改定予定額） （年 額） 375,600円（改定予定額） （注）1 授業料の納入については、希望により前期分の納入の際に後期分も合わせて納入できる制度を設ける予定である。 2 授業料（前期分）を上記納入期間に納入しないときは、平成3年4月1日から平成3年4月30日までに納入することとなる 3 入学手続き終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納入した者の申し出により当該授業料相当額を返還する (4) 入学手続場所 本学学生部入学主幹付入学試験係 （金沢市丸の内1番1号） (5) 留意事項 ① 本学の推薦入学合格者は、他の国公立大学・学部の個別学力検査等を受験しても入学許可は得られない（ただし、本学学長の推薦入学辞退許可を得た場合を除く） ② 入学手続き後は、一切の変更を認めない 入学辞退する場合は、高等学校長と連署で2月15日までに推薦入学辞退願（所定の用紙）により願い出て、学長の推薦入学辞退許可を得なければならない （注）その他入学時に必要な経費並びに入学料免除制度及び授業料免除制度については、「学生生活」の項（62ページ以下）の該当事項を参照すること 5 個別学力検査等の受験についての取扱い 選考の結果、合格しなかった者のうち、大学入試センター試験の5教科6科目を受験した者で、次の要領により再出願を行った者のみ、一般の入学志願者と同様に個別学力検査を受験することができる 出願のための用紙（募集要項）を希望する者は、返信用封筒（角型3号、360円切手をはり、受信者の郵便番号・住所・氏名を明記したもの）を同封の上教育学部教務係へ申し込むこと (1) 出願期間 平成3年1月22日（火）～平成3年1月31日（木） 受付は、日曜日を除き、午前9時から午後5時までとする。 ただし、土曜日は正午まで受け付ける 持参する場合も、郵送する場合も、平成3年1月31日（木）午後5時までに必着すること。ただし、締切日を過ぎて到着した郵送による願書のうち、平成3年1月29日（火）までの発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する (2) 提出書類 本学所定の封筒に次の書類を一括して入れ、出願期間内に教育学部教務係へ提出すること。 ①入学志願票・志願コード票・受験票・写真票 — 所定の用紙による 注：志願コード票には、センター試験成績請求票—「因 國 平成3センター試験成績請求票 A日程・前期日程用」をはること ②検定料—13,000円、郵便為替（普通為替に限る） ③検定料納付及び領収証書用紙—所定の用紙による ④調査書—出身学校長が作成したもの ⑤返送用封筒—受験票等送付用で、所定の封筒に、自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手（272円）をはり付けたもの ⑥合格者名簿送付申込書 ⑦受験票—推薦入学試験の際に発行した受験票 (3) 留意事項 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない

実施学部・課程名	教育学部 高等学校教員養成課程（保健体育）
募集人員	4 名 以 内
選 抜 期 日	平成 3 年 2 月 4 日（月） 小 論 文 — 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 2 0 面 接 — 1 3 : 0 0 ~ (注) 健康診断 調査書による審査の結果、特に必要があると認めた者については、面接終了後、本学で精密検査を行う
選 抜 方 法	選考は、大学入試センター試験、小論文、面接、調査書、推薦書及び健康診断の結果を総合して行う 小論文 — 体育、スポーツに関することを論述させる
出 願 期 間	平成 2 年 12 月 17 日（月）～平成 2 年 12 月 21 日（金） 受付時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。持参、郵送による場合も、期限までに必着のこと
出 願 要 件	1 平成 3 年 3 月高等学校を卒業見込みの者で、大学入試センター試験の 5 教科 6 科目を受験し、高等学校における学習成績概評が A 段階以上に該当し、体育・スポーツの分野で特に優れた能力を持つ者で、かつ、人物に優れ健康で中学校又は高等学校教育に熱意があり、高等学校長が責任を持って推薦できる者とする 2 推薦は、1 校に 1 名とする
そ の 他	1 出願手続 (1) 出願方法 (2)の提出書類は、高等学校長が取りまとめ、教育学部教務係へ提出すること。郵送の場合は、本募集要項に添付の出願用封筒の「推薦入学」を赤○で囲むこと 出 願 先 〒920 金沢市丸の内 1 番 1 号 金沢大学教育学部教務係 (2) 提出書類 ① 一般の入学志願者が提出すべき出願に必要な書類等（本募集要項 22 ページ、ただし、合格者名簿送付申込書を除く） ② 「推薦書」（所定の用紙で高等学校長が作成したもの） ③ 「体育運動に関する調査書」（所定の用紙で高等学校長が作成したもの） 「推薦書」、「体育運動に関する調査書」の用紙は、高等学校長からの請求により教育学部教務係で交付する。郵送を希望する場合は、返信用封筒（角型 3 号）に 360 円切手をはり付けたものを送付すること 2 合格者発表 平成 3 年 2 月 8 日（金）午後 4 時（予定）に教育学部掲示場で行うとともに、選考の結果は、高等学校長を通じて本人に通知する 合格者には、同時に合格通知書及び入学手続きに必要な書類を送付する 3 入学手続 (1) 入学手続期間（納入期間） 平成 3 年 2 月 14 日（木）～ 2 月 15 日（金） (2) 提出書類 本学受験票等、センター試験受験票（提示） (3) 授業料等納付金 ①入 学 料 2 0 6 , 0 0 0 円 郵便為替 ②授 業 料（前期分） 1 8 7 , 8 0 0 円（改定予定額）

実施学部・課程名	教育学部 高等学校教員養成課程（保健体育）
そ の 他	(年 額) 3 7 5 , 6 0 0 円（改定予定額） (注) 1 授業料の納入については、希望により前期分の納入の際に後期分も合わせて納入できる制度を設ける予定である 2 授業料（前期分）を上記納入期間に納入しないときは、平成 3 年 4 月 1 日から平成 3 年 4 月 30 日までに納入することとなる 3 入学手続き終了者が 3 月 31 日までに入学を辞退した場合には、納入した者の申し出により当該授業料相当額を返還する (4) 入学手続場所 本学学生部入学主幹付入学試験係 (金沢市丸の内 1 番 1 号) (5) 留意事項 ① 本学の推薦入学合格者は、他の国公立大学・学部の個別学力検査等を受験しても入学許可は得られない（ただし、本学学長の推薦入学辞退許可を得た場合を除く） ② 入学手続き後は、一切の変更を認めない 入学辞退する場合は、高等学校長と連署で 2 月 15 日までに推薦入学辞退願（所定の用紙）により願い出て、学長の推薦入学辞退許可を得なければならない (注) その他入学時に必要な経費並びに入学科免除制度及び授業料免除制度については、「学生生活」の項（62 ページ以下）の該当事項を参照すること 4 個別学力検査等（実技検査）の受験についての取扱い 選考に合格しなかった場合に備えて、次の要領によりあらかじめ出願を行った者についてのみ、一般の入学志願者と同様に個別学力検査等（実技検査）を受験することができる なお、所定の用紙・出願用封筒等は、推薦入学に出願した者に教育学部教務係で交付する (1) 出願期間 平成 3 年 1 月 22 日（火）～平成 3 年 1 月 31 日（木） 受付は、日曜日を除き、午前 9 時から午後 5 時までとする ただし、土曜日は正午まで受け付ける 持参する場合も、郵送する場合も、平成 3 年 1 月 31 日（木）午後 5 時までに必着すること。ただし、締切日を過ぎて到着した郵送による願書のうち、平成 3 年 1 月 29 日（火）までの発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する (2) 提出書類 本学所定の封筒に次の書類を一括して入れ、出願期間内に教育学部教務係へ提出すること ①教育学部志願書—所定の用紙による ②検定料—13,000 円、郵便為替（普通為替に限る） ③検定料納付及び領収証書用紙—所定の用紙による ④調査書—出身学校長が作成したもの ⑤返送用封筒—受験票等送付用で、所定の封筒に、自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手（272 円）をはり付けたもの ⑥合格者名簿送付申込書 (3) 留意事項 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない ◎ 第 2 志望について 高等学校教員養成課程（保健体育）とスポーツ科学課程を相互に第 1 志望・第 2 志望とすることは認めない

実施学部・課程名	教育学部 スポーツ科学課程
募集人員	6 名 以 内
選 抜 期 日	平成 3 年 2 月 4 日 (月) 小 論 文 — 10:00 ~ 11:20 面 接 — 13:00 ~ (注) 健康診断 調査書による審査の結果、特に必要があると認めた者については、面接終了後、本学で精密検査を行う
選 抜 方 法	選考は、大学入試センター試験、小論文、面接、調査書、推薦書及び健康診断の結果を総合して行う 小論文 — 体育、スポーツに関することを論述させる
出 願 期 間	平成 2 年 12 月 17 日 (月) ~ 平成 2 年 12 月 21 日 (金) 受付時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。持参、郵送による場合も、期限までに必着のこと
出 願 要 件	1 平成 3 年 3 月高等学校を卒業見込みの者で、大学入試センター試験の 5 教科 6 科目を受験している者 2 高等学校長が、次のいずれかに該当すると認め、人物、健康等に責任を持って推薦できる者 (1) 高等学校における学習成績概評が B 段階以上に該当し、体育・スポーツの分野で特に優れた成績をおさめた者 (2) 高等学校における学習成績概評が A 段階以上に該当し、学力に優れ、かつ体育・スポーツの分野に格別の興味と関心を持ち、校内・校外のスポーツ活動に熱心に携わっていた者 3 社会における体育・スポーツの充実・発展に貢献する熱意を有する者 4 推薦は、1 校に 2 名以内とする
そ の 他	1 出願手続 (1) 出願方法 (2)の提出書類は、高等学校長が取りまとめ、教育学部教務係へ提出すること。郵送の場合は、本募集要項に添付の出願用封筒の「推薦入学」を赤○で囲むこと 出 願 先 〒920 金沢市丸の内 1 番 1 号 金沢大学教育学部教務係 (2) 提出書類 ① 一般の入学志願者が提出すべき出願に必要な書類等 (本募集要項 22 ページ、ただし、合格者名簿送付申込書を除く) ② 「推薦書」 (所定の用紙で高等学校長が作成したもの) ③ 「体育運動に関する調査書」 (所定の用紙で高等学校長が作成したもの) 「推薦書」、「体育運動に関する調査書」の用紙は、高等学校長からの請求により教育学部教務係で交付する。郵送を希望する場合は、返信用封筒 (角型 3 号) に 360 円切手をはり付けたものを送付すること 2 合格者発表 平成 3 年 2 月 8 日 (金) 午後 4 時 (予定) に教育学部掲示場で行うとともに、選考の結果は、高等学校長を通じて本人に通知する 合格者には、同時に合格通知書及び入学手続きに必要な書類を送付する 3 入学手続 (1) 入学手続期間 (納入期間) 平成 3 年 2 月 14 日 (木) ~ 2 月 15 日 (金) (2) 提 出 書 類 本学受験票等、センター試験受験票 (提示)

実施学部・課程名	教育学部 スポーツ科学課程
そ の 他	<p>(3) 授業料等納付金</p> <p>①入 学 料 206,000 円 郵便為替</p> <p>②授 業 料 (前期分) 187,800 円 (改定予定額)</p> <p>(年 額) 375,600 円 (改定予定額)</p> <p>(注) 1 授業料の納入については、希望により前期分の納入の際に後期分も合わせて納入できる制度を設ける予定である</p> <p>2 授業料 (前期分) を上記納入期間に納入しないときは、平成 3 年 4 月 1 日から平成 3 年 4 月 30 日までに納入することとなる</p> <p>3 入学手続き終了者が 3 月 31 日までに入学を辞退した場合には、納入した者の申し出により当該授業料相当額を返還する</p> <p>(4) 入学手続場所 本学学生部入学主幹付入学試験係 (金沢市丸の内 1 番 1 号)</p> <p>(5) 留意事項</p> <p>① 本学の推薦入学合格者は、他の国公立大学・学部の個別学力検査等を受験しても入学許可は得られない (ただし、本学学長の推薦入学辞退許可を得た場合を除く)</p> <p>② 入学手続き後は、一切の変更を認めない 入学辞退する場合は、高等学校長と連署で 2 月 15 日までに推薦入学辞退願 (所定の用紙) により願い出て、学長の推薦入学辞退許可を得なければならない (注) その他入学時に必要な経費並びに入学科免除制度及び授業料免除制度については、「学生生活」の項 (62 ページ以下) の該当事項を参照すること</p> <p>4 個別学力検査等 (実技検査) の受験についての取扱い 選考に合格しなかった場合に備えて、次の要領によりあらかじめ出願を行った者についてのみ、一般の入学志願者と同様に個別学力検査等 (実技検査) を受験することができる なお、所定の用紙・出願用封筒等は、推薦入学に出願した者に教育学部教務係で交付する</p> <p>(1) 出願期間 平成 3 年 1 月 22 日 (火) ~ 平成 3 年 1 月 31 日 (木) 受付は、日曜日を除き、午前 9 時から午後 5 時までとする。 ただし、土曜日は正午まで受け付ける 持参する場合も、郵送する場合も、平成 3 年 1 月 31 日 (木) 午後 5 時までに必着すること。ただし、締切日を過ぎて到着した郵送による願書のうち、平成 3 年 1 月 29 日 (火) までの発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する</p> <p>(2) 提出書類 本学所定の封筒に次の書類を一括して入れ、出願期間内に教育学部教務係へ提出すること</p> <p>①教育学部志願書—所定の用紙による</p> <p>②検定料—13,000 円、郵便為替 (普通為替に限る)</p> <p>③検定料納付及び領収証書用紙—所定の用紙による</p> <p>④調査書—出身学校長が作成したもの</p> <p>⑤返信用封筒—受験票等送付用で、所定の封筒に、自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手 (272 円) をはり付けたもの</p> <p>⑥合格者名簿送付申込書</p> <p>(3) 留意事項 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない</p> <p>◎ 第 2 志望について スポーツ科学課程と高等学校教員養成課程 (保健体育) を相互に第 1 志望・第 2 志望とすることは認めない</p>

実施学部・学科名	経済学部 経済学科
募集人員	10 名 以 内
選 抜 期 日	平成2年12月6日(木) 小論文Ⅰ - 10:30 ~ 12:30 小論文Ⅱ - 13:30 ~ 15:00 平成2年12月7日(金) 面 接 - 9:00 ~ (注)健康診断 調査書による審査の結果、特に必要があると認めた者については、面接終了後、本学で精密検査を行う
選 抜 方 法	1 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除する 2 選考は、小論文(現代の文化・社会・経済に関する「小論文Ⅰ」と(英文の資料を与える。英和辞典を貸与する。)及び「小論文Ⅱ」とし、いずれも出題された論題について800字程度で論述させる)、面接、調査書、推薦書及び健康診断の結果を総合して行う
出 願 期 間	平成2年11月22日(木)～平成2年11月29日(木) 受付時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は正午までとし、日曜日は受け付けない 持参、郵送による場合も、期限までに必着のこと
出 願 要 件	1 平成3年3月高等学校の商業に関する学科を卒業見込みの者で、かつ、高等学校における学習成績概評がA段階以上に該当する者で、高等学校長が責任を持って推薦できる者とする。特別活動又は校外での活動において優れた能力を有する者が望ましい 2 推薦は、1校に1名とする
そ の 他	1 出願手続 (1) 出願方法 (2)の提出書類は、高等学校長が取りまとめ、経済学部学生係へ提出すること。郵送の場合は、本募集要項に添付の出願用封筒の「推薦入学」を赤○で囲むこと 出 願 先 〒920-11 金沢市角間町 金沢大学経済学部学生係 (2) 提出書類 ① 一般の入学志願者が提出すべき出願に必要な書類等(本募集要項22ページ。ただし、志願コード票の選択受験科目及び大学入試センター試験成績請求票、合格者名簿送付申込書を除く) ② 「推薦書」(所定の用紙で高等学校長が作成したもの)「推薦書」の用紙は、高等学校長からの請求により経済学部学生係で交付する。郵送を希望する場合は、返信用封筒(角型3号)に360円切手をはり付けたものを送付すること 2 選考の結果の通知 選考の結果は、平成2年12月14日(金)付けで高等学校長を通じて受験者に通知する 3 合格者発表 平成2年12月21日(金)午後4時(予定)に経済学部掲示場で行う 合格者には、同時に合格通知書及び入学手続きに必要な書類を送付する 4 入学手続 (1) 入学手続期間(納入期間) 平成3年2月14日(木)～2月15日(金) (2) 提 出 書 類 本学受験票等 (3) 授業料等納付金

実施学部・学科名	経済学部 経済学科
そ の 他	<p>①入 学 料 206,000円 郵便為替 ②授 業 料(前期分) 187,800円(改定予定額) (年 額) 375,600円(改定予定額) (注)1 授業料の納入については、希望により前期分の納入の際に後期分も合わせて納入できる制度を設ける予定である 2 授業料(前期分)を上記納入期間に納入しないときは、平成3年4月1日から平成3年4月30日までに納入することとなる 3 入学手続き終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納入した者の申し出により当該授業料相当額を返還する</p> <p>(4) 入学手続場所 本学学生部入学主幹付入学試験係 (金沢市丸の内1番1号)</p> <p>(5) 留意事項 ① 本学の推薦入学合格者は、他の国公立大学・学部の個別学力検査等を受験しても入学許可は得られない(ただし、本学学長の推薦入学辞退許可を得た場合を除く) ② 入学手続き後は、一切の変更を認めない 入学辞退する場合は、高等学校長と連署で2月15日までに推薦入学辞退願(所定の用紙)により願い出て、学長の推薦入学辞退許可を得なければならない (注)その他入学時に必要な経費並びに入学科免除制度及び授業料免除制度については、「学生生活」の項(62ページ以下)の該当事項を参照すること</p> <p>5 個別学力検査等の受験についての取扱い 選考の結果、合格しなかった者のうち、大学入試センター試験の5教科6科目を受験した者で、次の要領により再出願を行った者についてのみ、一般の入学志願者と同様に個別学力検査を受験することができる 出願のための用紙(募集要項)を希望する者は、返信用封筒(角型3号、360円切手をはり、受信者の郵便番号・住所・氏名を明記したもの)を同封の上経済学部学生係へ申し込むこと</p> <p>(1) 出願期間 平成3年1月22日(火)～平成3年1月31日(木) 受付は、日曜日を除き、午前9時から午後5時までとする ただし、土曜日は正午まで受け付ける 持参する場合も、郵送する場合も、平成3年1月31日(木)午後5時まで必着すること。ただし、締切日を過ぎて到着した郵送による願書のうち、平成3年1月29日(火)までの発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する</p> <p>(2) 提出書類 本学所定の封筒に次の書類を一括して入れ、出願期間内に経済学部学生係へ提出すること ①入学志願票・志願コード票・受験票・写真票 — 所定の用紙による 注：志願コード票にはセンター試験成績請求票をはること ②検定料—13,000円、郵便為替(普通為替に限る) ③検定料納付及び領収証書用紙—所定の用紙による ④調査書—出身学校長が作成したもの ⑤返信用封筒—受験票等送付用で、所定の封筒に、自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手(272円)をはり付けたもの ⑥合格者名簿送付申込書 ⑦受験票—推薦入学試験の際に発行した受験票</p> <p>(3) 留意事項 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない</p>

実施学部・学科名	工学部 電気・情報工学科
募集人員	10 名 以 内
選 抜 期 日	平成 2 年 12 月 14 日 (金) 小論文 - 10:00 ~ 11:30 面接 - 13:00 ~ (注) 1. 小論文 (科学技術に関することを論述させる) 2. 健康診断 調査書による審査の結果、特に必要があると認めた者については、面接終了後、本学で精密検査を行う
選 抜 方 法	1 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除する 2 選考は、推薦書、調査書、自己申告書 (志望理由及び自己アピールを 500 字以内でまとめた自筆のもの)、面接、小論文及び健康診断の結果を総合して行う
出 願 期 間	平成 2 年 12 月 1 日 (土) ~ 平成 2 年 12 月 7 日 (金) 受付時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、土曜日は正午までとし、日曜日は受け付けない 持参、郵送による場合も、期限までに必着のこと
出 願 要 件	1 平成 3 年 3 月高等学校を卒業見込みの者 2 人物及び学業成績が優秀 (理科系の特定科目に極めて優れている場合も含む) で、心身共に健康で、本学科における勉学に熱意を持ち、学校長が責任をもって推薦できる者 3 推薦は、1 校に 1 名とする
そ の 他	1 出願手続 (1) 出願方法 (2) の提出書類は、高等学校長が取りまとめ、工学部学生係へ提出すること。郵送の場合は、本募集要項に添付の出願用封筒の「推薦入学」を赤○で囲むこと 出 願 先 〒920 金沢市小立野 2 丁目 40 番 20 号 金沢大学工学部学生係 (2) 提出書類 ① 一般の入学志願者が提出すべき出願に必要な書類等 (本募集要項 22 ページ。ただし、志願コード票の選択受験科目・大学入試センター試験成績請求票、合格者名簿送付申込書を除く) ② 「推薦書」 (所定の用紙で高等学校長が作成したもの) 及び「自己申告書」 (所定の用紙に、志望理由及び自己アピールを 500 字以内にまとめた自筆のもの) ③ 「推薦書」及び「自己申告書」の用紙は、高等学校長からの請求により工学部学生係で交付する 郵送を希望する場合は、返信用封筒 (角型 3 号) に 360 円切手をはり付けたものを送付すること 2 合格者発表 平成 2 年 12 月 21 日 (金) 午後 4 時 (予定) に工学部掲示場で行う 合格者には、同時に合格通知書及び入学手続きに必要な書類を送付する 3 入学手続 (1) 入学手続期間 (納入期間) 平成 3 年 2 月 14 日 (木) ~ 2 月 15 日 (金) (2) 提出書類 本学受験票等 (3) 授業料等納付金 ① 入 学 料 206,000 円 郵便為替 ② 授 業 料 (前期分) 187,800 円 (改定予定額)

実施学部・学科名	工学部 電気・情報工学科
そ の 他	(年 額) 375,600 円 (改定予定額) (注) 1 授業料の納入については、希望により前期分の納入の際に後期分も合わせて納入できる制度を設ける予定である 2 授業料 (前期分) を上記納入期間に納入しないときは、平成 3 年 4 月 1 日から平成 3 年 4 月 30 日までに納入することとなる 3 入学手続き終了者が 3 月 31 日までに入学を辞退した場合には、納入した者の申し出により当該授業料相当額を返還する (4) 入学手続場所 本学学生部入学主幹付入学試験係 (金沢市丸の内 1 番 1 号) (5) 留意事項 ① 本学の推薦入学合格者は、他の国公立大学・学部の個別学力検査等を受験しても入学許可は得られない (ただし、本学学長の推薦入学辞退許可を得た場合を除く) ② 入学手続き後は、一切の変更を認めない 入学辞退する場合は、高等学校長と連署で 2 月 15 日までに推薦入学辞退願 (所定の用紙) により願い出て、学長の推薦入学辞退許可を得なければならない (注) その他入学時に必要な経費並びに入学料免除制度及び授業料免除制度については、「学生生活」の項 (62 ページ以下) の該当事項を参照すること 4 個別学力検査等の受験についての取扱い 選考の結果、合格しなかった者のうち、大学入試センター試験の 5 教科 6 科目を受験した者で、次の要領により再出願を行った者についてのみ、一般の入学志願者と同様に個別学力検査を受験することができ 出願のための用紙 (募集要項) を希望する者は、返信用封筒 (角型 3 号、360 円切手をはり、受信者の郵便番号・住所・氏名を明記したもの) を同封の上工学部学生係へ申し込むこと (1) 出願期間 平成 3 年 1 月 22 日 (火) ~ 平成 3 年 1 月 31 日 (木) 受付は、日曜日を除き、午前 9 時から午後 5 時までとする。 ただし、土曜日は正午まで受け付ける 持参する場合も、郵送する場合も、平成 3 年 1 月 31 日 (木) 午後 5 時までに必着すること。ただし、締切日を過ぎて到着した郵送による願書のうち、平成 3 年 1 月 29 日 (火) までの発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する (2) 提出書類 本学所定の封筒に次の書類を一括して入れ、出願期間内に工学部学生係へ提出すること ① 入学志願票・志願コード票・受験票・写真票 - 所定の用紙による 注: 志願コード票にはセンター試験成績請求票をはること ② 検定料 - 13,000 円、郵便為替 (普通為替に限る) ③ 検定料納付及び領収証書用紙 - 所定の用紙による ④ 調査書 - 出身学校長が作成したもの ⑤ 返信用封筒 - 受験票等送付用で、所定の封筒に、自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手 (272 円) をはり付けたもの ⑥ 合格者名簿送付申込書 ⑦ 受験票 - 推薦入学試験の際に発行した受験票 (3) 留意事項 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない

(1) 出願資格

① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者若しくはこれに準ずる者で文部大臣の指定したもの、又は国際バカロレア資格を有する者で平成3年3月31日までに18歳に達するもの

② 出入国管理及び難民認定法において、大学入学に支障のない在留資格を有する者

(2) 入学者選抜方法

平成2年度日本語能力試験（1級）及び平成3年度私費外国人留学生統一試験の成績、学力検査等の成績、書類審査及び健康診断の結果を総合して日本人とは異なる基準により、定員外として選考する。

(3) 個別学力検査等の科目及び実施期日

① 個別学力検査等の科目は次のとおりである。

学 部	学 科 (課程)	留学生統一試験	学 力 検 査 等
教育学部	中学校教員養成課程 〔国語〕 養護学校教員養成課程 (中学部)〔国語〕	文 科 系	小論文と面接
法 学 部	法 学 科	文 科 系	小論文と面接
経済学部	経 済 学 科	文 科 系	小論文と面接
理 学 部	数 学 科	理 科 系	一般の入学志願者の個別学力 検査等(前期日程)の科目と面接
	物 理 学 科 物 理 学 科 化 学 科 生 物 学 科 地 学 科		小論文と面接
医 学 部	医 学 科	理 科 系	一般の入学志願者の個別学力 検査等の科目と面接
薬 学 部	全 学 科	理 科 系	一般の入学志願者の個別学力 検査等(前期日程)の科目と面接
工 学 部	全 学 科	理 科 系	面接

注 一般の入学志願者の個別学力検査等の科目は、本要項「2 入学者選抜方法等の(4)平成3年度入学者選抜の実施教科・科目等について」を参照すること。

② 個別学力検査等の実施期日は次のとおりである。

— 40 —

学 部	学 科 (課程)	学力検査及び実技検査	小論文及び面接
理 学 部	数 学 科	平成 3 年 2 月 25 日 (月)	平成 3 年 2 月 26 日 (火)
	物 理 学 科		平成 3 年 2 月 26 日 (火)
	生 物 学 科		
医 学 部	医 学 科	平成 3 年 2 月 25 日 (月)	平成 3 年 2 月 26 日 (火)
薬 学 部	全 学 科	平成 3 年 2 月 25 日 (月)	平成 3 年 2 月 26 日 (火)
工 学 部	全 学 科		平成 3 年 2 月 26 日 (火)

注 1 学力検査及び実技検査の試験時間割は、本要項(19ページ)「2 入学者選抜方法等の(7)試験期日及び試験時間割」のとおりである。ただし、教育学部の小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程(小学部)及び言語障害児教育教員養成課程の実技検査は、2月25日(月)の9:30～10:30で行う。

2 小論文及び面接の時間及び場所については、出願書類受理後に連絡する。

(4) 健康診断

出願書類として提出された健康診断書によって審査し、精密検査が必要と認められる者については、試験当日その旨を通知した上で検査を行う。

(5) 出 願

① この入学者選抜を希望する者は、出願用封筒に外国人特別学生(私費外国人留学生)出願書類在中と朱書すること。

② 出願期間 平成3年1月22日(火) ～ 平成3年1月31日(木)

受付は、日曜日を除き、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は正午まで受け付ける。

持参する場合も、郵送する場合も、平成3年1月31日(木)午後5時までに必着すること。ただし、締切日を過ぎて到着した郵送による願書のうち、平成3年1月29日(火)までの発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する。

③ 出願に必要な提出書類等

- 入学志願票 ○志願コード票 ○受験票 ○写真票 ○検定料13,000円
○検定料納付及び領収証書用紙 ○健康診断書 ○返送用封筒
○合格者名簿送付申込書

(以上の用紙は本要項に添付されている)

○外国人登録済証明書(在留資格が明示されたもの)

○履歴書(日本語で記載すること)

○最終課程の修了証明書、検定合格証明書又は国際バカロレア資格証書並びにそれらの成績証明書

○日本在住者の身元保証書

教育学部の志願者については、上記のほか次の書類も提出すること。

○教育学部写真票(小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程(小学部)、言語障害児教育教員養成課程の志願者)

○選択系列・曲目届(中学校教員養成課程〔音楽〕の志願者)

○選択種目届(高等学校教員養成課程(保健体育)及びスポーツ科学課程の志願者)

12 入学試験に関する問い合わせ

入学試験に関する問い合わせは、住所、氏名、郵便番号を明記した往復はがき又は書状(定形の返信用封筒に62円切手をはり付けたものを同封すること)により、次のとおり志願学部又は学生部入学主幹付入学試験係あて行うこと。

学 部 等	住 所	電話番号
文 学 部 ・ 学 生 係	〒920-11 金沢市角間町	0762-64-5455
教 育 学 部 ・ 教 務 係	〒920 金沢市丸の内1番1号	0762-62-4281
法 学 部 ・ 学 生 係	〒920-11 金沢市角間町	0762-64-5456
経 済 学 部 ・ 学 生 係	〒920-11 金沢市角間町	0762-64-5457
理 学 部 ・ 学 生 係	〒920 金沢市丸の内1番1号	0762-62-4281
医 学 部 ・ 教 務 係	〒920 金沢市宝町13番1号	0762-62-8151
薬 学 部 ・ 学 生 係	〒920 金沢市宝町13番1号	0762-62-8151
工 学 部 ・ 学 生 係	〒920 金沢市小立野2丁目40番20号	0762-61-2101
学生部入学主幹付入学試験係	〒920 金沢市丸の内1番1号	0762-62-4281

13 情報提供(テレフォンサービス)

平成3年度入学試験の実施状況について、次のとおり24時間サービスのテレフォンサービスを行う。

本学への直接電話等による照会には応じないので、このテレフォンサービスを利用すること。

(1) 期間及び情報内容

① 平成2年10月22日 ～ 平成3年1月22日

- 募集要項の請求方法
- 募集要項の内容
- その他の情報

② 平成3年1月22日 ～ 平成3年2月4日

- 出願状況(学部・学科(課程)ごとの志願者数及び倍率)

- 追加合格について

0762 (21) 7700 [通話料金は有料]

1 募集人員

学 部 (日程)	学 科	募集人員	備 考
経 済 学 部 (後期日程)	経 済 学 科	30	
理 学 部 (後期日程)	数 学 科	5	
	物 理 学 科	5	
	化 学 科	10	
	生 物 学 科	5	
	地 学 科	5	
	計	30	
薬 学 部 (後期日程)	薬 学 科	5	
	製 薬 化 学 科	5	
	計	10	
工 学 部 (後期日程)	土 木 建 設 工 学 科	20	
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	30	
	物 質 化 学 工 学 科	25	
	電 気 ・ 情 報 工 学 科	20	
	計	95	
合 計		165	

注 上記募集人員について増員〔理学部2名程度(地学科2名)]を計画している。
平成3年度予算の関係で現在は未確定であるが、この詳細は政府予算案の決定後
(平成3年1月頃)発表する予定である。

2 入学者選抜方法等

後期日程で個別学力検査等を行う学部は、次のとおり行う。

なお、特別選抜方法(推薦入学)並びに外国人特別学生(私費外国人留学生)については〔A日程・前期日程・推薦入学〕の項(30ページ～42ページ)を参照すること。

(1) 入学者選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験並びに本学が行う個別学力検査等、調査書の審査及び健康診断の結果を総合して行う。

- ① 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等、個別学力検査等及び健康診断の詳細については、「(5)平成3年度入学者選抜の実施教科・科目等について」から「(9)健康診断」までの各項をそれぞれ参照すること。
- ② 大学入試センター試験及び個別学力検査等で、志望する学部・学科が課す教科・科目のすべてを受験しなければ、失格とする。
- ③ 「前期日程」に合格し、3月13日までに入学手続きを行った者は、「後期日程」を受験してもその合格者とはならない。

(2) 学 内 併 願

本学では、日程の異なった学部間及び同一学部内学科間の併願を認める。

ただし、「A日程」と「前期日程」、「同一日程間」の併願はできないので注意すること。

(3) 2 段 階 選 抜

- ① 次の学部の学科では、志願者が募集人員の下記倍数を超えた場合に、主として、調査書の内容と大学入試センター試験の成績により第1段階選抜を行うことがある。この場合、その合格者について個別学力試験等を行う。

経済学部(経済学科)	8倍
理学部(数学科, 生物学科, 地学科)	10倍
工学部(全学科)	8倍

- ② 第1段階選抜の合格者発表

発表日 平成3年2月15日(金)

発表方法

ア 第1段階選抜を実施しない場合

実施しない旨を、該当学部において掲示発表するとともに、志願者全員に受験票を送付する。

イ 第1段階選抜を実施した場合

合格者の受付番号(入学検定料領収証書の氏名欄に記載されている)を、該当学部において掲示発表するとともに、合格者には合格通知書及び受験票を、不合格者には不合格通知書及び入学検定料の一部返還申請書等を送付する。

(4) 第 2 志 望

薬学部の薬学科及び製薬化学科の志願者は、互いに他を第2志望とすることができる。

(5) 平成3年度入学選抜の実施教科・科目等について

入学志願者に解答させる 教科・科目名等		選 抜 の 対 象	大学入試センター 試験で入学志願者に 解答させる教科・ 科目名	個別学力検査等 の教科・科目等	大学入試 センター 試験の利用 方法	そ の 他
経済学部	経済学科	一般選抜 の全部	国社(倫, 日, 世, 地 理, 現社から1) 数(「数I」と「数II」, 簿, 工から1) 理(物, 化, 生, 地 学, 理Iから1) 外(英, 独, 仏から 1)	小論文 (現代の文化・社会 ・経済に関する課 題について論述さ せる。英文を含む 出題もあり得る。 英和辞典1冊の持 込みを認める。)		
	数学科	一般選抜 の全部	数(「数I」と「数II」, 簿, 工から1) 理(物, 化, 生, 地 学, 理Iから1) 外(英, 独, 仏から 1)	数(数I, 代幾, 基 解, 微積, 確統)		
	物理学科	一般選抜 の全部	国社(倫, 日, 世, 地 理, 現社から1) 数(「数I」と「数II」, 簿, 工から1) 理(物と「化, 生, 理Iから1」) 外(英, 独, 仏から 1)	個別学力検査等は課 さない	50ページ 「(6)配点」 を参照す ること	◎ 大学入試セン ター試験の理科 を1科目選択受 験しなければならない学部・学 科において、複 数の科目を受験 した受験者の成 績は、最高得点 のものを本人の 成績とする。 ◎ 各教科とも受 験科目数が複数 であっても同一 試験時間内に解 答させる。
	化学科	一般選抜 の全部	国社(倫, 日, 世, 地 理, 現社から1) 数(「数I」と「数II」, 簿, 工から1) 理(物, 化) 外(英, 独, 仏から 1)	理(化)		
	生物学科	一般選抜 の全部	国社(倫, 日, 世, 地 理, 現社から1) 数(「数I」と「数II」, 簿, 工から1) 理(物, 化, 生, 地 学, 理Iから1) 外(英, 独, 仏から 1)	面接 (生物学に対する勉 学意欲と資質等を 判断するための試 問を行う。)		
	地学科	一般選抜 の全部	国社(倫, 日, 世, 地 理, 現社から1) 数(「数I」と「数II」, 簿, 工から1) 理(物, 化, 生, 地 学, 理Iから1) 外(英, 独, 仏から 1)	面接 (地学に対する勉 学意欲と資質等を 判断するための試 問を行う。)		
薬学部	薬製薬化学科	一般選抜 の全部	数(「数I」と「数II」, 工から1) 理(化) 外(英, 独, 仏から 1)	個別学力検査等は課 さない		

入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選 抜 の 対 象	大学入試センター 試験で入学志願者に 解答させる教科・ 科目名	個別学力検査等 の教科・科目等	大学入試 センター 試験の利用 方法	そ の 他
学部・学科名					
土木建設工学科	一般選抜 の全部	国社(倫, 日, 世, 地 理, 現社から1) 数(「数I」と「数II」, 簿, 工から1) 理(物, 化, 生, 地 学, 理Iから1) 外(英, 独, 仏から 1)	面接 (多面的な試問を行 い、勉学遂行意欲 を評定する。)		
工学部 機械システム工学科	一般選抜 の全部	国社(倫, 日, 世, 地 理, 現社から1) 数(数I, 数II) 理(物) 外(英, 独, 仏から 1)	小論文 (科学技術一般に関 する素養に基づい た800字程度の 作文)	50ページ 「(6)配点」 を参照す ること	◎ 大学入試セン ター試験の理科 を1科目選択受 験しなければならない学部・学 科において、複 数の科目を受験 した受験者の成 績は、最高得点 のものを本人の 成績とする。 ◎ 各教科とも受 験科目数が複数 であっても同一 試験時間内に解 答させる。
物質化学工学科	一般選抜 の全部	国社(倫, 日, 世, 地 理, 現社から1) 数(数I, 数II) 理(物, 化から1) 外(英, 独, 仏から 1)	面接 (化学・物理学など の基礎的事項に関 する理解力と表現 力を問う。)		
電気・情報工学科	一般選抜 の全部	国社(倫, 日, 世, 地 理, 現社から1) 数(数I, 数II) 理(物) 外(英, 独, 仏から 1)	面接 (科学技術の勉学・ 研究に必要な適 性、能力及び意欲 を評価する。)		

- 注 1 社, 理 のうち「現社」及び「理I」を選択解答することができる者は、高等学校の普通科, 理数科
の卒業(見込み)者以外の者に限る。
- 2 数 のうち「簿」「工」を選択解答することができる者は、高等学校において、「簿記会計I」・「簿記
会計II」又は「工業数理」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了
(見込み)者に限る。
- 3 大学入試センター試験科目については、出願に際し特に次の事項に注意すること
- 志願する学部・学科(課程)が課す教科・科目が実際受験した教科・科目と一致すること。
 - 「現代社会」, 「理科I」, 「簿記会計I・II」, 「工業数理」を選択受験できるものは、上記1, 2に示す
とおりである。

備 考 個別学力検査等の教科・科目等は、表中次のとおり略記した。

数 学・・・数I(数学I), 代幾(代数・幾何), 基解(基礎解析), 微積(微分・積分), 確統
(確率・統計)

理 科・・・化(化学)

(6) 配 点

大学入試センター試験（大試と略す）及び個別学力検査等（個別と略す）の配点は、次のとおりである。

学 部 ・ 学 科		配点	教 科 等								合計
		区分	国語	社会	数学	理科	外国語	実技	小論文	面接	
経 済 学 部		大試	25	12.5	25	12.5	25	—	—	—	100
		個別	—	—	—	—	—	—	400	—	400
理 学 部	数 学 科	大試	—	—	200	100	200	—	—	—	500
		個別	—	—	400	—	—	—	—	—	400
	物 理 学 科	大試	100	100	200	#300	300	—	—	—	1,000
		個別	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学 部	化 学 科	大試	50	50	100	100	100	—	—	—	400
		個別	—	—	—	300	—	—	—	—	300
部	生 物 学 科	大試	200	200	300	300	300	—	—	—	1,300
		個別	—	—	—	—	—	—	—	300	300
	地 学 科	大試	50	50	200	200	200	—	—	—	700
		個別	—	—	—	—	—	—	—	400	400
薬 学 部		大試	—	—	200	200	100	—	—	—	500
		個別	—	—	—	—	—	—	—	—	—
工 学 部	土 木 建 設 工 学 科	大試	100	100	100	100	100	—	—	—	500
		個別	—	—	—	—	—	—	—	100	100
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	大試	100	50	200	150	200	—	—	—	700
		個別	—	—	—	—	—	—	100	—	100
	物 質 化 学 工 学 科	大試	100	50	250	200	200	—	—	—	800
		個別	—	—	—	—	—	—	—	100	100
	電 気 ・ 情 報 工 学 科	大試	50	50	200	100	100	—	—	—	500
		個別	—	—	—	—	—	—	—	100	100

注 理学部の物理学科の#印は、物理（200点）、〔化学、生物、理科ⅠからⅢ〕（100点）であることを示す。

(7) 試験期日及び試験時間割

(等学全並面) 学 部 科 目 (8)

学部・学科		月日(曜)	3 月 11 日(月)
経 済 学 部		小論文	9:00~12:00
理 学 部	数 学 科	数 学	10:00~13:00
	物 理 学 科	個別学力検査等は課さない	
学 部	化 学 科	理 科(化学)	10:00~12:00
	生 物 学 科	面 接	9:00~
部		(詳細は、受験票送付時に通知する)	
	地 学 科	面 接	9:00~
		(詳細は、受験票送付時に通知する)	
薬 学 部		個別学力検査等は課さない	
工 学 部	土 木 建 設 工 学 科	面 接	9:00~
		(詳細は、受験票送付時に通知する)	
学 部	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	小論文	13:30~15:00
	物 質 化 学 工 学 科	面 接	9:00~
部		(詳細は、受験票送付時に通知する)	
	電 気 ・ 情 報 工 学 科	面 接	9:00~
		(詳細は、受験票送付時に通知する)	

(8) 試 験 場 (面接会場等)

志 願 学 部	試 験 場	所 在 地
経 済 学 部	経 済 学 部	金沢市角間町
理 学 部	理 学 部	金沢市丸の内1番1号
工 学 部	工 学 部	金沢市小立野2丁目40番20号

注 試験場等の詳細は、2月16日(土)受験票送付の際に通知する。

(9) 健 康 診 断

- ① 調査書の「健康の状況」又は健康診断書によって審査し、必要と認める者については、精密検査を3月11日(月)午後本学で実施する。
- ② 精密検査の該当者には、実施に関する事項を3月11日の学力検査、小論文及び面接終了時までまでに通知する。
なお、薬学部及び理学部・物理学科志願者のうち、精密検査を受検しなければならない者には、2月16日受験票を送付する際に通知する。
- ③ 精密検査の該当者が受検しない場合は、失格とする。
- ④ 調査書又は健康診断書に記載された事項が入学後本学で実施する健康診断の結果と著しく相違し、修学に必要な条件を満たしていないことが判明した場合には、入学後であっても入学許可を取り消すことがある。
- ⑤ 学部・学科によっては、修学に耐えないと認められる疾病並びに視力障害、聴力障害、言語障害及び運動機能障害(肢体不自由)等のある者は、入学を許可しないことがある。なお、次の学部・学科は色覚障害を合否判定の基準とはしないが、高度の異常は修学上支障を来すことがある。

理 学 部 化 学 科, 地 学 科

薬 学 部 薬 学 科, 製薬化学科

工 学 部 土木建設工学科, 物質化学工学科

該当する者は、出願に先立ち上記事項に留意するとともに、不明の点があれば、あらかじめ問い合わせること。

3 出 願 期 間

平成3年1月22日(火)～平成3年1月31日(木)

受付は、日曜日を除き、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は正午まで受け付ける。

持参する場合も、郵送する場合も、平成3年1月31日(木)午後5時までに必着すること。ただし、締切日(1月31日)を過ぎて到着した郵送による願書のうち、平成3年1月29日(火)までの発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する。

◎出願状況の情報提供について

各学部・学科の出願状況(志願者数及び倍率)について、次の期間中テレフォンサービスで情報提供を行う。

平成3年1月22日(火)午後7時頃 ～ 2月初旬

電話番号 0762(21)7700(通話料金は有料)

4 出 願 手 続

(1) 出 願 方 法

志願者は、(2)の「出願に必要な書類等」(後期日程用)を一括して、本学所定の封筒に入れ、出願期間内に志願する学部提出すること。

なお、出身高等学校等で取りまとめて提出する場合も、志願者ごとに本学所定の封筒に入れて提出すること。

〔出願に当たっての注意事項〕

- ① A日程・前期日程・推薦入学の出願用紙・封筒を使用してはならない。
- ② 大学入試センター試験の受験票及び成績請求票の再発行を受けた場合は、再発行された受験票及び成績請求票のみが有効である。この場合は、再発行された成績請求票により出願しなければ、失格とする。
- ③ 他の国公立大学(私立産業医科大学を含む)・学部の前期日程入学手続者は、本学の後期日程を受験しても合格者とはならない(当該大学・学部の定める入学手続を取らなかった者を除く)。
- ④ 他の国公立大学(私立産業医科大学を含む)・学部の推薦入学合格者は、本学を受験しても合格者とはならない(当該大学・学部の定める入学辞退手続により入学辞退し、その許可を得た者を除く)。
- ⑤ 出願書類に不備がある場合は、受理しないことがある。
- ⑥ 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない(ただし、第1段階選抜の不合格者には、申し出により検定料の一部を返還する)。
- ⑦ 出願書類に不正な事実があった場合は、入学許可を取り消すことがある。

(2) 出願に必要な書類等

①入学志願票 志願コード票 受験票 写真票	本要項に添付の用紙により作成すること 「B 圏 平成3センター試験成績請求票B日程・後期日程用」及び写真2枚をそれぞれ所定の欄にはり付けること（「入学志願票等記入要領」を参照すること）
②検 定 料	13,000円 …………… 郵便為替（普通為替に限る） 郵送による場合も、普通為替を出願書類に同封して提出すること なお、この普通為替の受取人指定欄、領収者欄等には何も記入しないこと 第1段階選抜で不合格となった場合は、返還請求手続きを取ることに より11,000円を返還する（返還に要する書類は、不合格通知に同封する）
③検定料納付及び 領収証書用紙	本要項に添付の用紙により作成すること（切手を貼付する必要はない） 郵便はがきの部分に、郵便番号・住所・氏名を記入すること
④調 査 書	文部省所定の様式により出身学校長が作成したもの （「出欠の記録」欄で長期の欠席があった場合は、必ず備考欄にその診断名等を記入すること。「健康の状況」欄の記入にあたっては、異常がない場合又は特に記入する事項がない場合は、その旨を記入すること。 眼鏡等を使用している者は、矯正視力を必ず記入すること）
⑤健康診断書	平成元年3月以前の高等学校卒業生及び大学入学資格検定合格者等は、本要項に添付の用紙により視力、聴力、結核並びにその他の疾病及び異常について医師が証明し、厳封したもの （平成2年3月高等学校卒業生及び平成3年3月卒業見込みの者は、提出の必要はない）
⑥返 送 用 封 筒	受験票等送付用で、本要項に添付の封筒に、自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手（272円）をはり付けたもの
⑦合格者名簿送付 申 込 書	本要項に添付の用紙に必要事項を記入し、510円分切手を貼ること 注：合格発表（大学の合格発表は学内掲示のみとする）と同時に、志願者全員に合格者名簿（志願学部のみ）を電子郵便で送付するためのものである

- (注) 1 外国人は、上記書類のほか、外国人登録済証明書（在留資格が明示されたもの）を添付すること。
- 2 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の修了者は、修了証明書及び成績証明書をもって調査書に代える。
- 3 文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了者は、成績証明書をもって調査書に代える。
- 4 大学入学資格検定試験の合格者は、合格証明書及び合格成績証明書をもって調査書に代える。
- 5 調査書の提出困難な学校（廃校、被災等）の出身者は、その旨を証明した書類をもって調査書に代える。

(3) 出願書類等の提出先

志願学部	提 出 先
経済学部	経済学部・学生係 〒920-11 金沢市角間町
理学部	理学部・学生係 〒920 金沢市丸の内1番1号
薬学部	薬学部・学生係 〒920 金沢市宝町13番1号
工学部	工学部・学生係 〒920 金沢市小立野2丁目40番20号

(4) 入学志願票等記入要領

入学志願票・志願コード票・受験票・写真票の「※」印欄を除き、以下の指示に従って該当事項を正確に記入すること。

① 入学志願票

(注意すべき項目)

第 2 志 望	○ 薬学部志願者で、他の学科を第2志望とする場合は、当該第2志望の学科名を○で囲むこと
出 願 資 格	○ 18歳以前に大学入学資格検定試験に合格した者は、18歳に達した元号の年月、また、18歳以降に合格した者は、合格した元号の年月を記入すること

② 志願コード票

次の表の説明に従ってコード等を記入すること（A日程、前期日程、推薦入学の志願コード票については25ページを参照すること）。

区 分		説 明		コード等記入例				
②学部・学科		次の学部・学科コード表により記入すること 〔学部・学科コード表〕						
学部・学科		コード	学部・学科	コード	学部・学科	コード		
経済学部 理 学 部	数 学 科	177	薬 学 部	薬 学 科	517	工 学 部	土 木 建 設 工 学 科	617
	物 理 学 科	317		機 械 シ ス テ ム 工 学 科	627			
	化 学 科	327		物 質 化 学 工 学 科	637			
	生 物 学 科	337		電 気 ・ 情 報 工 学 科	647			
	地 学 科	347						
			357					
③ 成績請求票		大学入試センターから交付された「 <u>国</u> 平成3センター試験成績請求票B日程・後期日程用」をはり付けること なお、再交付を受けた場合は、再交付された成績請求票のみ有効である						
④ 第2志望 (薬学部以外は記入を要しない)		薬学部	○薬学科の志願者で、製薬化学科を第2志望とするもの ○製薬化学科の志願者で、薬学科を第2志望とするもの		5 5 5 1			
⑤ 生 年 月 日		数字が1ケタの場合は、あたりに0を記入すること				例 昭和9年1月7日 0 9 0 1 0 7		
⑥ 性 別		男 女				1 2		
⑦ 資格取得年		高等学校卒業見込み又は卒業の元号を記入すること				昭和63年 S 6 3 平成元年 H 0 1		

5 身体に障害のある者の出願

身体に障害のある入学志願者で、受験上及び修学上、特別な配慮を必要とする者は、出願に先立ち、下記の事項を記載した文書（様式は問わない）に医師の診断書を添えて、学生部入学主幹付入学試験係へ提出し、相談すること。

なお、身体障害者手帳を交付されている者は、その写もあわせて提出すること。

- ① 志望学部・学科
- ② 障害の種類・程度
- ③ 受験上、特別な配慮を希望する事項
- ④ 修学上、特別な配慮を希望する事項
- ⑤ 高等学校でとられていた特別措置
- ⑥ 日常生活の状況
- ⑦ その他参考となる事項

6 受験票等の送付

受験票は、試験場・集合場所等の案内、受験者心得とともに出願期間終了後の2月16日（土）に志願者あて発送する。

なお、2段階選抜を実施した学部・学科の第1段階選抜合格者には、試験場・集合場所等の案内を受験者心得とともに出願期間終了後の2月16日（土）に志願者あて発送する。

（注）この受験票は、入学試験の際に大学入試センター試験受験票とともに、提示しなければならない。

また、入学手続の際には、提出しなければならないので紛失、汚損等のないように特に注意すること。

7 合格者発表

後期日程合格者の受験番号及び氏名は、次のとおり発表する。

なお、本学における合格発表は掲示のみとし、合格通知及び入学手続に必要な書類用紙の交付は、入学手続の際に直接行う。

発表日時 3月21日（木）午前10時（予定）

発表場所 本学教養部（金沢市丸の内1番1号）前掲示場

なお、志願者全員に電子郵便で志願した学部の合格者名簿を送付するので、確認すること（電子郵便は3月21日の午後7時頃までに宛先へ配達される予定であるが、万一未着の場合は、最寄りの配達局若しくは、金沢中央郵便局第二郵便課（☎0762-24-3822）まで問い合わせること）。

（注）①合格発表は、原則として大学入試センター試験受験の際の氏名で発表する。

②本学への電話等による照会には応じない。

8 欠員補充の方法

入学手続きの結果、欠員が生じた場合は、3月28日以降に「追加合格」を実施することがある。通知は、志願票の「通知を受ける場所」へ直接行うので、不在にする場合も連絡のとれるように手配しておくこと。

なお、他の国公立大学（私立産業医科大学を含む）に入学手続きを完了した者はそれを取り消して、本学の入学手続きを行うことはできない。

9 入 学 手 続

合格者の入学手続は、次のとおり行う。

（後 期 日 程）

- (1) 合格者は、入学手続期間内に直接来学のうえ必要な書類を提出し、所定の納付金を納入すること。
郵送による入学手続きは、受け付けない。
- (2) 入学手続期間（納入期間）
平成3年3月26日（火）、平成3年3月27日（水）
- (3) 提出書類 本学受験票
大学入試センター試験受験票（提示のみ）
- (4) 授業料等納付金
入学科 206,000円 郵便為替（普通為替に限る）
授業料（前期分）187,800円（改定予定額）
（年 額）375,600円（改定予定額）
郵便為替（普通為替に限る）
（注）① 入学科と授業料（前期分）を同時に納入する場合は、1枚の郵便為替とすること。
郵便為替の受取人指定欄、領収者欄等には何も記入してはいけない。
② 授業料の納入については、希望により前期分の納入の際に後期分も合わせて納入できる制度を設ける予定である。
③ 授業料（前期分）を上記納入期間に納入しないときは、平成3年4月1日から平成3年4月30日までに納入することとなる。
④ 入学手続終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納入した者の申し出により当該授業料相当額を返還する。
- (5) 入学手続場所 本学 学生会館（金沢市丸の内1番1号）
- (6) 留意事項
① 入学手続後は、一切の変更を認めない。
② 入学手続期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱う。
③ 他の国公立大学（私立産業医科大学を含む）に入学手続を行った者は、これを辞退して本学に入学手続を行うことはできない。

- ④ 「前期日程」に合格し、3月13日までに入学手続きを行った者は、「後期日程」を受験してもその合格者とはならない。
- ⑤ その他入学時に必要な経費並びに入学料免除制度及び授業料免除制度については「学生生活」の項（62ページ以下）の該当事項を参照すること。

10 入学試験に関する問い合わせ

入学試験に関する問い合わせは、住所、氏名、郵便番号を明記した往復はがき又は書状（定形の返信用封筒に62円切手をはり付けたものを同封すること）により、次のとおり志望学部又は学生部入学主幹付入学試験係あて行うこと。

学 部 等	住 所	電話番号
経済学部・学生係	〒920-11 金沢市角間町	0762-64-5457
理学部・学生係	〒920 金沢市丸の内1番1号	0762-62-4281
薬学部・学生係	〒920 金沢市宝町13番1号	0762-62-8151
工学部・学生係	〒920 金沢市小立野2丁目40番20号	0762-61-2101
学生部入学主幹付入学試験係	〒920 金沢市丸の内1番1号	0762-62-4281

11 情報提供（テレフォンサービス）

平成3年度入学試験の実施状況について、次のとおり24時間サービスのテレフォンサービスを行う。

本学への直接電話等による照会には応じないので、このテレフォンサービスを利用すること。

(1) 期間及び情報内容

- ① 平成2年10月22日 ～ 平成3年1月22日
 - 募集要項の請求方法
 - 募集要項の内容
 - その他の情報
- ② 平成3年1月22日 ～ 平成3年2月4日
 - 出願状況（学部・学科ごとの志願者数及び倍率）
- ③ 平成3年2月4日 ～ 平成3年2月中旬
 - 合格発表について
 - 入学手続きについて
 - その他の情報
- ④ 平成3年2月中旬 ～ 平成3年3月28日
 - 2段階選抜について

- (2) 電話番号 0762(21)7700 [通話料金は有料]

○申し込み先 (蒲安千宝站) 田008,781 会期前 授業対
〒920 金沢市丸の内1番 (蒲安千宝站) (田008,781 会期前 授業対)
「学 生 生 活」

1 入学時に必要な経費

授業料等学生納付金

入学料 206,000円
授業料 前期分 187,800円 (改定予定額)
(年額 375,600円) (改定予定額)

(注) 授業料の納入については、希望により前期分の納入の際に後期分も合わせて納入できる制度を設ける予定である。

その他必要な経費は、次のとおりである。

- (1) 学生健康保険組合費 4年分8,000円 (医学部は6年分12,000円)
- (2) 学生教育研究災害傷害保険料
文学部、教育学部、法学部、経済学部 (4年分) 1,900円 (改定予定額)
理学部、薬学部、工学部 (4年分) 2,450円 (改定予定額)
医学部 (6年分) 3,400円 (改定予定額)

参 考

教科書代は、当初15,000円 ~ 20,000円程度必要である。

2 入学料免除に関する取扱い

1. 入学料免除の対象者

- (1) 入学前1年以内(平成2年4月から平成3年3月の間)に入学する者の学資を主として負担している者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の納付が著しく困難であると認められる者
- (2) 上記(1)に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある者

上記(1)及び(2)の事由に該当する者は、願い出により入学料の全額又は半額が免除されることがある。

後日この決定通知をするが、半額免除又は不許可になった者は、その通知書に指定してある日までに入学料を納付しないときは除籍となるので留意されたい。

2. 入学料免除申請手続

区 分	申請書の請求	申請書の提出 (入学手続期間)	申 請 書 類
推薦による者	2月1日までに	2月14日(木) ~ 15日(金)	・入学料免除願書 ・学資を負担している者の市区町村長の所得証明書 ・風水害等を受けた罹災証明書 ・その他の証明書
前期日程の者	3月1日までに	3月12日(火) ~ 13日(水)	
A日程の者 後期日程の者	3月15日までに	3月26日(火) ~ 27日(水)	

○入学料免除申請書の請求

郵便で請求する者は、免除申請の理由及び電話番号を付し、自己の住所・氏名・郵便番号を記入した返信用封筒(定形の封筒に62円切手をはったもの)を同封すること。

なお、入学料免除の詳細についても、厚生課厚生第一係へ照会すること。

○申し込み先

〒920 金沢市丸の内1番1号
金沢大学学生部厚生課厚生第一係〔電話(0762) 62-4281 内線286〕

3 授業料免除に関する取扱い

1. 免除対象者について

- (1) 経済的理由によって授業料を納付することが困難であり、かつ学業成績が優秀と認められる者
- (2) 入学前1年以内に、入学する者の学資を主として負担している者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる者
- (3) 前号に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある者

2. 申請書類及び添付書類

- (1) 申請者全員が必要とする書類

申 請 書 類 等	留 意 事 項 等	発 行 先
①授 業 料 免 除 願 (所定様式)	理由は具体的に記入のこと	入学手続きの時に渡す入学者の手引に添付してある。
②身 上 調 書 (所定様式)	記入もれのないよう留意すること	同 上
③所 得 証 明 書 (所定様式)	就学者を除く家族全員の名前を記入し、平成元年の所得について証明してもらうこと。	市区町村役場

- (2) その他の添付書類

次の表の1~13に該当する者は、各証明書を添付すること。

該 当 事 項		添 付 証 明 書	発 行 先
1	平成2年1月以降勤務先をかえた者及び新しく就職した者	源泉徴収票(2年分)の写	勤 務 先
2	平成3年1月以降勤務先をかえた者及び新しく就職した者	年収見込証明書又は月収明細書	勤 務 先

該 当 事 項	添 付 証 明 書	発 行 先
3 平成2年1月以降新たに給与所得以外の所得が生じた者	確定申告書（2年分）の写	税務署へ提出した写
4 平成2年4月から平成3年3月までの間に学資負担者が死亡した場合	戸籍謄本又は死亡診断書、死亡した時点までの所得証明書（源泉徴収票の写）、退職金、退職一時金証明書、保険金証明書	市区町村役場又は医師、元勤務先、保険会社等
5 平成2年4月から平成3年3月までの間に本人若しくは学資負担者が風水害等の災害にあった場合	罹災証明書、保険金証明書	警察署、消防署又は市区町村役場、保険会社等
6 家族に年金・恩給受給者がいる場合（70才以上は全員）	2年の受給額通知書の写	
7 生活保護を受けている世帯の場合	生活保護被保護者証明書（扶助料額を記入してあるもの）	社会福祉事務所
8 学資負担者が無職である場合	無職証明書	市区町村の民生委員
9 家族に雇用保険金を受けている者がいる場合	雇用保険金受給証明書	職業安定所
10 家族に障害者がいる場合	障害者手帳の写	
11 家族に出願時現在長期療養中（6ヵ月以上）の者がいる場合（医療費がかからない場合は該当しない。）	診断書及び医療費支払証明書	病院、医院
12 家計支持者が別居（単身赴任等）している場合	別居先での住居費・光熱費の領収書	
13 出願時現在6ヵ月以内に臨時的な所得（退職金、保険金、資産譲渡による所得等）がある場合	退職金・退職一時金、証明書、保険金証明書等	元勤務先・保険会社等

3. 免除の額について

上記1の(1)、(2)及び(3)の事由に該当する者は、願い出により納付すべき前期授業料の全額又は半額が免除されることがある。

4. 免除の願書出願について

前期分の授業料免除の出願については、平成3年3月26日から、4月5日までに教養部学生係へ提出すること。

受付時間は、午前9時から午後5時まで、ただし、土曜日、日曜日は受付しない。

5. 注意事項

- (1) 免除申請希望者は、入学手続期間中に授業料を納付しないこと。（納付した場合は免除申請できない。）
- (2) 免除申請した者は、選考の結果が発表されるまで授業料の納付を猶予されるので納付しないよう注意すること。（納付した場合は免除されない。）
- (3) 免除されなかった者又は半額免除になった者については、その決定があった後すみやかに授業料を納付しなければならない。
- (4) 納付がないときは、除籍になるので注意すること。

4 奨学制度について

日本育英会には、学業成績が優秀で、経済的理由により学資支弁の困難な学生に対し、選考の上、次のとおり奨学金を貸与する制度〔第一種奨学金（無利子貸与制度）と第二種奨学金（有利子貸与制度）の2本立て〕がある。

○自宅通学 月額 29,000円

○自宅外通学 月額 35,000円

本学では、全学生の約22.5%（平成2年9月1日現在）の学生が日本育英会の奨学金の貸与を受けている。

なお、日本育英会のほか、地方公共団体、会社、財団などの奨学制度がある。

5 学生寮

本学には、北溟寮、泉学寮（以上男子寮）、白梅寮（女子寮）の3寮があり、いずれも鉄筋コンクリート4階建である。

居室は、1室2人収容で各室とも机、椅子、ベッド、本棚等が備えつけられており、各寮とも食堂、自炊室、浴室、娯楽室、洗濯室等が完備している。

収容人員は、男子590人、女子164人、計754人であり、平成3年度の新入生に対する募集は、男子約200人、女子約40人の予定である。

1ヵ月の寮生活費は、寄宿料720円、諸経費約13,000円（夕食費を含む）程度である。

学生寮の詳細を知りたい場合及び入寮を希望する者は、住所・氏名・郵便番号を記入した返信用封筒（定形の封筒に62円切手を貼ったもの）を同封し、「入寮案内（入寮願書添付）」を2月末日までに請求すること。

▼請求先及び入寮願書提出先

学生部厚生課厚生第二係 (〒920 金沢市丸の内1番1号)

▼入寮願書提出期限 平成3年3月22日(金) 必着

なお、入寮願書には、市・区・町村長発行の平成元年分の所得証明書(源泉徴収票の写でも可)の添付が必要なので早めに準備しておくこと。

6 下宿・貸間等の紹介

下宿・貸間等の紹介は、下記のとおり行う。

平成3年3月12日(火)～3月14日(木)

本学学生会館(金沢市丸の内1番1号)

なお、平成3年3月15日以降は、学生部厚生課で紹介する。

紹介時間 9時～12時及び13時～17時

参 考

家賃・部屋代等は所在地、部屋、食事等の条件により異なるが、おおよそ次のとおりである。

量 数	下 宿 (2食付)	貸 間	アパ ー ト
4.5 畳	33,000～41,000円	10,000～16,000円	9,000～13,000円
6 畳	39,000～46,000円	12,000～19,000円	15,000～30,000円
8 畳	40,000～49,000円	15,000～20,000円	23,000～40,000円
備 考	電気料別	電気、ガス、水道料別	敷金・礼金各1～2ヵ月

なお、入居希望者に十分対処でき得る数は確保されている。

7 アルバイト

学資の補助のためやむを得ずアルバイトをする学生のために、アルバイトのあっ旋を行っている。

ただし、新入生に対しては、学生生活に慣れるまでの約2ヵ月間は、あっ旋しない。

1日当りの平均賃金は、事務 4,000円～5,600円、軽労働 4,000円～7,000円、重労働 5,000円～7,500円、家庭教師は週2回で月20,000円～26,000円程度である。

8 保健管理センター

センターは、学生の保健管理に関する専門的業務を行うための施設として設置され、心身の健康の増進を図ることが目的です。

また、必要に応じて応急処置を行います。治療のための施設ではなく、積極的な健康の保持

増進に主眼が置かれており、定期健康診断を始め健康相談、健康指導、学生相談等の業務をしています。

9 学生健康保険組合

この組合は、本学学生を対象とし、学生の健康保持及び疾病負傷について相互に救済することを目的としている。

本学の全学生が組合員(組合費納入者)となり、在学中、病気になったり負傷した場合は、必要な治療を受け、速やかに健康を回復して学業や研究に励むことができるように、学生の互助によってその医療費を救済し、各自の負担を軽減しようとするものです。

組合費は、年額2,000円で修業年限に応じてその全額を納入する。

給付には、医療給付と弔慰金があります。

医療給付

病気や負傷により診療機関(保険診療をする病院、医院、診療所など)で診療を受けた場合は、医療費総額の2.5割以内を組合員の請求に基づいて給付します。

ただし、年間1人に給付する最高限度額は40,000円です。

弔慰金

組合員が不幸にして死亡した場合は、10,000円が保証人に支払われます。

10 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、学生が教育研究活動中の急激かつ偶然な外来の事故によって身体に傷害を被った場合の救済処置として、全国の国・公・私立大学の学生を対象とした補償制度です。

この災害傷害保険は、学生の互助共済を基本としているため、本学では、全学生を加入することになっている。

11 卒業後の進路（平成元年度卒業者）

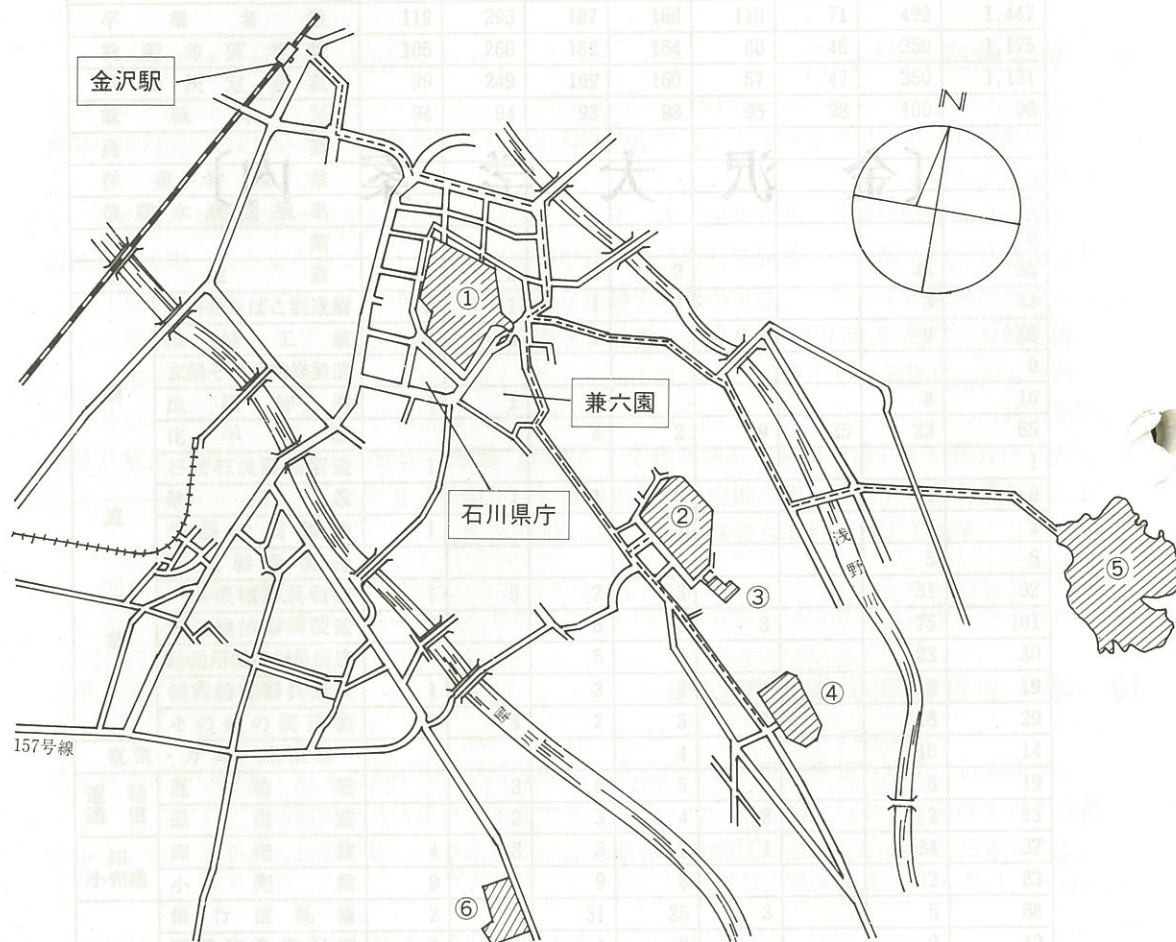
平成2年5月1日現在

区 分		学 部	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	薬学部	工学部	合 計
卒 業 者 数		119	293	187	168	110	71	499	1,447	
就 職 希 望 者 数		105	266	182	164	60	48	350	1,175	
就 職 決 定 者 数		99	249	169	160	57	47	350	1,131	
就 職 率 %		94	94	93	98	95	98	100	96	
農 業										
林 業 狩 猟 業										
漁 業 水 産 養 殖 業		1							1	
鉱 業									0	
建 設 業		1	3	4	2			45	55	
製 造 業	食料品たばこ製造業	2	1	1	7			3	14	
	織 維 工 業	1	4	1		3		9	18	
	衣服その他繊維製造								0	
	出 版 印 刷	4	1	3				8	16	
	化 学 工 業		2	4	2	9	25	23	65	
	石油石炭製品製造	1							1	
	鉄 鋼 業		1	1	2			4	8	
	非 鉄 金 属 製 造	1			1				2	
	金 属 製 品 製 造							5	5	
	一般機械器具製造	1	3	2	13	2		31	52	
	電気機械器具製造	3		8	12	3		75	101	
	輸送用機械器具製造			5	2			23	30	
	精密機械器具製造	1		3	2	4		9	19	
	その他の製造業	3	4	2	3	1		16	29	
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業					4			10	14	
運 輸 信 託	運 輸 業		2	6	5			6	19	
	通 信 業		2	3	4	2		2	13	
卸 小 売 業	卸 売 業	4	8	3	7	1		14	37	
	小 売 業	9	6	9	6		1	2	33	
金 融 保 険 業	銀 行 信 託 業	2	2	31	25	3		5	68	
	証 券 商 品 取 引 業	3	1	4	2			2	12	
	保 險 業	2	1	9	11				23	
	その他の金融保険			4	6				10	
不 動 産 業				1					1	
マ コ ス ミ	新 聞 ・ 出 版	2	1	2	4				9	
	ラ ジ オ ・ テ レ ビ	1	1	2	3				7	
サ ー ビ ス 業	医 療 保 健 業		1					10	11	
	法 務			1					1	
	教 育	21	133	2	1	12		1	170	
	宗 教								0	
	非 営 利 的 団 体			1					1	
	その他のサービス業	25	58	15	21	10	1	32	162	
公 務	国 家 公 務	3	2	11	4	1	5	1	27	
	地 方 公 務	8	12	31	11	4	5	24	95	
そ の 他						2			2	
小 計		99	249	169	160	57	47	350	1,131	
大 学 院 進 学 等		20	44	18	8	53	24	149	316	
合 計		119	293	187	168	110	71	499	1,447	

〔金 沢 大 学 案 内〕

〔金 沢 大 学 案 内〕

金沢大学所在地略図



注意

試験場は各学部校舎となる予定である。
ただし、志願者数によっては、本学教養部・医療技術短期大学部・金沢市内の公立高校等もあり得るので、受験票送付の際同封する「確定試験場及び試験場案内」により確認すること。

団地	学 部 等
① 丸の内団地	教 育 学 部 理 学 部 教 養 部 事 務 局
② 宝町団地	医 学 部 薬 学 部
③ " (鶴間)	医療技術短期大学部
④ 小立野団地	工 学 部
⑤ 角間団地	文 学 部 法 学 部 経 済 学 部
⑥ 平和町団地	附 属 高 等 学 校

文学部

金沢大学案内

本学の概要

金沢大学は、昭和24年5月31日法律第150号国立学校設置法が公布され、従前の勅令によって設置されていた第四高等学校、石川師範学校、石川青年師範学校、金沢高等師範学校、金沢医科大学、金沢医科大学附属医学専門部、金沢医科大学附属薬学専門部及び金沢工業専門学校を包括し、法文学部、教育学部、理学部、医学部、薬学部及び工学部の6学部をもって設置された。更に、昭和55年4月には、法文学部の拡充改組により、文学部、法学部及び経済学部が新たに設置され計8学部となった。

大学院については、昭和30年に医学研究科（博士課程）が設置され、その後、昭和38年理学研究科（修士課程）、昭和39年薬学研究科（修士課程）、昭和40年工学研究科（修士課程）、昭和46年法学研究科（修士課程）、昭和47年文学研究科（修士課程）、昭和57年教育学研究科（修士課程）、昭和59年経済学研究科（修士課程）、昭和62年自然科学研究科（後期3年博士課程）が設置された。

専攻科には、特殊教育特別専攻科が、別科には、養護教諭特別別科がそれぞれ設置されている。

なお、金沢大学は、創造と総合の学府を目指し、医学部、医学部附属病院及び教育学部附属学校を除き、丸の内の城内地区から南東へ約4キロメートルの角間地区へ総合移転することになっており、まず平成元年秋には文学部・法学部・経済学部の3学部の移転が完了し、以降順次各部署が移転する予定で計画が進められている。

教養部、学部及び大学院の概要

教 養 部

本学の修業年限は4年（医学部は6年）で、最初の1年半（医学部は2年）は教養部において一般教養課程を履修し、その後それぞれの学部に進学し、専門教育課程を履修することになっている。教養部は一般教育の理念にしたがい、高度の教養を身につけるために設けられたもので、専門教育課程への単なる準備教育ではなく、一般的教養をそなえた判断力と批判力に富む人間を育成することを目的としている。

教養部には、次の科目がある。

一般教育科目

（人 文 系） 哲学、倫理学、歴史学、文学、西洋古典学、音楽、美術

（社 会 系） 日本国憲法、法学、政治学、経済学、社会学、心理学、地理学

（自 然 系） 数学、物理学、物理学実験、化学、化学実験、生物学、生物学実験、地学、地学実験、力学、図学

（総合科目） 文化人類学、統計学、科学技術文化史、朝鮮文化

外国語科目

英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、西洋古典語（ラテン語、ギリシャ語）

保健体育科目

保健体育講義、保健体育実技

基礎教育科目

放射線物理学、体液生理学、一般生理学、人体発生学、細胞・組織学、生体物質の化学

日本語科目及び日本事情に関する科目（外国人留学生対象）

文 学 部

本学部は、旧第四高等学校を母体に昭和24年金沢大学法文学部文学科として発足して以来、逐年充実され、昭和55年4月法文学部哲学科、史学科及び文学科を発展的に再編成して、新しく創設された学部である。本学部には、行動科学科、史学科及び文学科の3学科が設置されている。

文学部は、人文社会諸科学の長足の進歩に即応し、人間教育に対する社会的要請に応じて、新しい研究教育組織を確立し、総合的かつ専門的知識を身につけた人材を養成することを目的としている。

本学部専門課程においては、各学科所定の授業科目の単位を修得するほかに、卒業論文（行動科学科においては、卒業論文又は特別演習）が課される。

文学部（行動科学科、史学科、文学科）における卒業生は、教育職員、公務員、出版報道関係などに就職し、活躍している。また、大学院への進学者も多い。

なお、昭和47年に大学院文学研究科（修士課程、哲学専攻・史学専攻・国文学専攻・英文学専攻・ドイツ文学専攻の5専攻、入学定員28名）が設置されているが、文学部の創設に伴い、更に整備充実が進められる計画である。

行動科学科

行動科学科には、実験行動学、差異行動学、社会行動学、動態社会学、文化人類学、比較文化及び行動科学基礎論の各講座が設置されている。

行動科学科においては、行動諸科学の基本的知見を履修する一方、各自の関心に応じて、以下の五つのコースのいずれか一つを選択し、各コースのカリキュラムを中心的に履修することになっている。

各コースごとの定数を志望者数を超える場合には、選考の上、履修コースを決定することがある。

各コース名、各コースを担当する講座及び各コースごとの主な授業科目は、次のとおりである。

（心理学履修コース）

行動の基礎としての認知・学習等、あるいは、パーソナリティ・行動病理等を研究する。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

実験行動学 { 心理学概論、応用心理学概論、行動学研究法
差異行動学 { 心理検査法、心理学実験

（社会学履修コース）

社会調査の技法を用いて、対人関係・集団・コミュニティ等、あるいは社会移動・コミュニケーション・社会病理等を研究する。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

社会行動学 { 社会学概論、社会学史、社会調査
動態社会学 { 社会調査実習

（文化人類学履修コース）

民族・社会の慣習や制度等の調査と分析を通して、文化の構造と機能を研究する。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

文化人類学 文化人類学, 人類学, 文化人類学調査実習
(比較思想履修コース)

異なった文化, 特に思想・宗教の相互接触や交流等を研究する。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

比較文化学 文化構造論, 思想と文化, 宗教と文化
(哲学履修コース)

諸科学の論理的・認識論的・行為論的な基礎を問い, その発展に寄与してきた哲学思想を考察する。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

行動科学基礎論 哲学概論, 哲学史, 論理学

以上の外に, 行動科学全般への理解を深めるための行動科学序論と, 各講座ごとの個別テーマを詳説する特殊講義, それらについての自主的学修能力を養うための演習が開講される。

史 学 科

史学科には, 日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 地理学及び地誌学の各講座が設置されている。

史学科においては, 日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学及び地理学の各概説並びに史学概論など基本的知識を総合的に履修する一方, 各自の関心に応じて, 以下の五つのコースのいずれか一つを選択し, 各コースのカリキュラムを中心的に履修し, 更に古文書, 中国史料, 欧米語の文献史料の講読研究, 遺跡の発掘, 文化財調査, 地域文化の調査, 地理実地研究などを通して専門的知識を深めることとしている。

各コースごとの定数を志望者数を超える場合には, 選考の上, 履修コースを決定することがある。

各コース名, 各コースを担当する講座及び各コースごとの主な授業科目は, 次のとおりである。

(日本史学履修コース)

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

日本史学 日本史学概説, 日本史学特殊講義, 日本史学演習

(東洋史学履修コース)

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

東洋史学 東洋史学概説, アジア諸地域史, 東洋史学特殊講義, 東洋史学演習

(西洋史学履修コース)

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

西洋史学 西洋史学概説, 西洋史学特殊講義, 西洋史学演習

(考古学履修コース)

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

考古学 考古学概説, 考古学特殊講義, 考古学演習, 考古学実習

(地理学履修コース)

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

地理学 地理学概論, 自然地理学概説, 地域論, 地誌, 地理学特殊講義
地誌学 地理学演習, 地理学実習, 地域調査実習

文 学 科

文学科には, 国語学, 国文学, 中国語中国文学, イギリス文学, アメリカ文学, 英語学, ドイツ文学, ドイツ語学, フランス語フランス文学及び言語学の講座が設置されている。

文学科においては, 文学全般に関する文学概論又は言語学概論を履修する一方, 各自の関心に応じて, 以下の六つのコースのいずれか一つを選択し, 各コースのカリキュラムを中心に履修することになっている。

各コースごとの定数を志望者数を超える場合には, 選考の上, 履修コースを決定することがある。

各コース名, 各コースを担当する講座及び各コースごとの主な授業科目は, 次のとおりである。

(国語国文学履修コース)

国語学と国文学に大別される。国語学は, 日本語の原理法則を解明する学問であり, 音韻, 文法, 意義の三つに分けられる。国文学は, 古今の日本文学を文献学を基礎として, 更に文芸学的, 歴史社会学的及び民俗学的な諸方法をも加え研究するものである。その外, 日本における漢文学など比較文学の研究も行われる。

各講座を担当する主な授業科目は, 次のとおりである。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

国語学 国語学概説, 国語学史, 国語学特殊講義, 国語学演習

国文学 国文学概説, 国文学史, 国文学特殊講義, 国文学演習

(中国語中国文学履修コース)

中国語学と中国文学に大別される。中国語学は, 中国語の原理法則を解明する学問であり, 中国文学は, 古今にわたる中国文学を研究する。

中国語学及び中国文学の諸分野の研究を通して, 中国文化一般に関する専門的知識の修得につとめる。更に外国人教師による実際の指導も行われる。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

中国語中国文学 中国文学概説, 中国文学史, 中国語学概説, 中国文学特殊講義,
中国語学特殊講義, 中国文学演習, 中国語学演習

(英語英米文学履修コース)

英語・英米文学の研究を通して, 英米の文化一般に関する研究と教育が行われる。各作家, 作品の個別的研究と演習など文学研究のほか, 英語の理論と歴史に関する講義, 演習, 更に外国人教師による実際の指導, LL装置による訓練も行われる。

各講座を担当する主な授業科目は, 次のとおりである。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

イギリス文学 英文学史, 英文学特殊講義, 英文学演習

アメリカ文学 米文学史, 米文学特殊講義, 米文学演習

英 語 学 英語学概説, 英語学特殊講義, 英語学演習 (ドイツ語ドイツ文学履修コース)

ドイツ語・ドイツ文学の研究を通して, ドイツの文化一般に関する研究と教育が行われる。各作家, 作品の個別的研究と演習など文学研究のほか, ドイツ語の理論と歴史に関する講義, 演習, 更に外国人教師による実際の指導, LL装置による訓練も行われる。

各講座が担当する主な授業科目は, 次のとおりである。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

ド イ ツ 文 学 ドイツ文学史, ドイツ文学特殊講義, ドイツ文学演習

ド イ ツ 語 学 ドイツ語学概説, ドイツ語学特殊講義, ドイツ語学演習

(フランス語フランス文学履修コース)

フランス語・フランス文学の研究を通して, フランス文化一般に関する研究と教育が行われる。各作家, 作品の個別的研究と演習など文学研究のほか, フランス語の理論と歴史に関する講義, 演習, 更に外国人教師による実際の指導も行われる。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

フランス語フランス文学 フランス文学史, フランス文学特殊講義, フランス文学演習,

フランス語学概説, フランス語学特殊講義, フランス語学演習

(言語学履修コース)

言語学は, 人間の「ことば」を対象とする学問であり, 日本語を含む世界の諸言語の構造(音韻・文法・意味)の研究を中心に据えながら, 地理的分布や社会的機能などの観点からも多面的にとらえようとする。本講座では, 言語学概論及び音声学を始め, 記述言語学や歴史・比較言語学の諸分野について個別的にあるいは一般的に講ずる。また, コンピューターによる言語処理実習, ソナグラフ等の機器を用いた音声分析や, フィールド・ワーク(臨地調査)も行う。英・独・仏・中国以外の外国語も履修できるよう特殊語学も開講される。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

言 語 学 言語学概論, 音声学, 言語学特殊講義, 言語学演習, 言語学実験

実習, 特殊語学(ギリシャ語・ラテン語・アラビア語・ヘブライ

語・エチオピア語・その他)

◆教育職員免許状

卒業に必要な単位の外に, 所定の「教職科目」等を履修した者は, 次の種類・教科の教育職員免許状を取得することができる。

行動科学科	高等学校教諭一種免許状
史 学 科	「地理歴史」, 「公民」…… (平成2年度課程認定申請の予定)
文 学 科	中学校教諭一種免許状「社会」
	高等学校教諭一種免許状「国語」, 「英語」, 「ドイツ語」
	中学校教諭一種免許状「国語」, 「英語」, 「ドイツ語」

◆大 学 院 (修士課程)

	定員	定員	定員
文学研究科	哲学専攻 6名	国文学専攻 6名	ドイツ文学専攻 3名
	史学専攻 7名	英文学専攻 6名	計 28名

教 育 学 部

本学部は, 人文・社会・教育・自然科学, 工学, 保健学, 芸術, 体育学等の各分野の専門の研究と指導を行い, 広く教育界の各方面に活躍できる有能な人材を養成することを目的として, 旧石川師範学校, 旧石川青年師範学校, 旧金沢高等師範学校を母体として昭和24年に金沢大学創設とともに発足した。

本学部には, 小学校教員養成課程, 中学校教員養成課程, 高等学校教員養成課程, 聾学校教員養成課程, 養護学校教員養成課程, 言語障害児教育教員養成課程, 総合科学課程及びスポーツ科学課程の8課程が設置されている。また, 大学院については, 昭和57年に教育学研究科修士課程が設置され, 現在の11専攻に拡充されている。また, これに並行して博士課程の設置にも努めてきた結果, 昭和62年に本学に大学院自然科学研究科博士課程が設置されている。この博士課程は, 自然科学系各分野の修士課程を修了した者等を広く受け入れて, 教育学部のみならず理学部, 薬学部, 工学部, 教養部等の本学の自然科学系教官が一体となって教育と研究を行う, 全国的にもユニークなシステムの博士課程である。

本学部では, すべての学生は, 研究・指導のユニットとして設けられている「学生研究室」(教育・教育心理・国語・英語・歴史・地理・法経・哲学・社会科教育・数学・物理・化学・生物・地学・理科教育・音楽・美術・保健・体育・家庭・産業技術・聾教育・養護教育・言語障害児教育等)に所属して, 卒業論文・卒業制作・卒業演奏等の指導を中心に, 各課程所定の授業科目について指導を受けることができる。

本学部における主な授業科目は, 次のとおりである。

〔教科に関する主な専門教育科目〕

国 語 科 一 国語学概論, 国語学演習, 国文学講読, 国文学演習, 漢文講読, 書道演習

英 語 科 一 英語学概説, 英語史概説, 英米文学史, 英文学演習, 英作文・英会話

社 会 科 一 平安時代史研究, 日本近代史, 西洋史概説, 東洋史概説

一 自然地理学, 人文地理学, 地誌学, 地理学演習・実習

一 憲法学演習, 経済学原理, 地域社会論, 社会学

一 哲学概論・特論・演習, 倫理学概論・演習, 倫理思想史

数 学 科 一 代数学, 解析学, 幾何学, 応用数学

理 科 一 物理学概説, 物理学実験

一 物理化学, 無機化学, 有機化学, 分析化学, 化学実験

一 植物生理化学, 動物生理学, 分子遺伝学, 生態学, 生物学実験, 生物学野外実習

一 地質学, 古生物学, 鉱物学・岩石学, 地学特論, 地学実験, 地学野外実習

音 楽 科 一 ソルフェージュ, 声楽(合唱を含む), 器楽(合奏を含む), 指揮法, 音楽理論・音楽史

美 術 科 一 絵画, 彫刻, デザイン, 工芸, 美術理論及び美術史

保 健 科 一 学校保健, 生理学, 衛生学

家 庭 科 一 栄養学, 食品学, 被服学, 衣科学, 育児学, 住居学, 家庭経営, 家政学原論

技 術 科 一 製図, 木材加工, 金属加工, 機械, 電気, 栽培, 情報技術

職 業 科 一 職業指導, 産業概説, 農業, 工業

保健体育科 一体育原理, 体育心理学, 体育経営管理学, 体育社会学, 運動学, 競技運動, 球技運動
(ドイツ語 基礎コース)

〔教職に関する主な専門科目〕

日本教育史, 西洋教育史, 教育方法学, 教育哲学, 教育経営学
教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学, 社会心理学, 特別活動論, 生徒指導
道徳教育の研究, 各教科教育法, 保育内容の研究, 教育実習

〔特殊教育に関する主な専門科目〕

聾 教 育 科 一聴覚障害児教育概論, 聴覚障害児心理学, 聴覚障害児言語指導法, 聴覚障害児教育実習
養護学校教育科 一障害児教育学, 障害児心理学, 障害児病理学, 障害児教育実習
言語障害児教育科 一養護学校教育科の科目のほかに言語病理学, 言語障害学各論

〔総合科学課程の主な授業科目〕

文化科学コース: 日本語論, 日本文学史, 西洋文学史, 現代社会論, 地域システム論, 食生活文化論, 生活経済学, 英語論, 英米文学, 英語史
自然科学コース: 情報数学, 情報処理, ソフトウェア論, 物理学特論, 無機化学, 生態学, 遺伝子工学, 環境地質学
人間科学コース: 人間形成学, 教育工学, 人間行動学, 発達障害学, 産業教育論, 衣装環境論, 住居環境論

〔スポーツ科学課程の主な授業科目〕

生涯スポーツ論, 実践スポーツ科学, 基礎スポーツ科学, スポーツ指導実習, 社会体育実習

〔教育職員免許状〕

各課程において取得できる教育職員普通免許状の種類は, 次のとおりである。

○小学校教員養成課程

小学校教諭一種免許状を取得することができる。なお, 履修方法によっては, 上記のほかに特定の教科の中学校教諭二種(努力すれば一種)免許状又は幼稚園教諭一種免許状取得の可能性もある。

○中学校教員養成課程

専攻する教科の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得することができる。なお, 履修方法によっては, 上記のほかに, 特定の教科の中学校教諭二種免許状又は小学校教諭二種(努力すれば一種)免許状取得の可能性もある。

○高等学校教員養成課程

高等学校教諭一種免許状「保健体育」及び中学校教諭一種免許状「保健体育」を取得することができる。なお, 履修方法によっては, 上記のほかに, 特定の教科の中学校教諭二種免許状又は小学校教諭二種免許状取得の可能性もある。

○聾学校教員養成課程

聾学校教諭一種免許状及び小学校教諭一種免許状を取得することができる。

○養護学校教員養成課程

小学部は, 養護学校教諭一種免許状及び小学校教諭一種免許状を取得することができる。
中学部は, 養護学校教諭一種免許状並びに専攻する教科の中学校教諭一種免許状及び高等学

校教諭一種免許状を取得することができる。

○言語障害児教育教員養成課程

養護学校教諭一種免許状及び小学校教諭一種免許状を取得することができる。

○総合科学課程

履修方法によっては, 次の教職免許状の取得の可能性もある。

文化科学コース……中学校教諭一種免許状「社会」, 高等学校教諭一種免許状「地理歴史」, 「公民」……(平成2年度課程認定申請の予定)

自然科学コース……中学校教諭一種免許状「理科」及び高等学校教諭一種免許状「理科」, 人間科学コース……中学校教諭二種免許状「職業指導」

○スポーツ科学課程

履修方法によっては, 中学校教諭一種免許状「保健体育」及び高等学校教諭一種免許状「保健体育」取得の可能性もある。

◆大 学 院 (修士課程)

定員	
教育学研究科	学校教育専攻 10名
	国語教育専攻 4名
	社会科教育専攻 5名
	数学教育専攻 4名
	理科教育専攻 5名
	美術教育専攻 3名
	保健体育専攻 5名
	技術教育専攻 5名
	家政教育専攻 5名
	英語教育専攻 4名
	障害児教育専攻 5名
計 55名	

◆大 学 院 (博士課程)

自然科学研究科の項(95ページ参照)に記載

◆専 攻 科

特殊教育特別専攻科	言語障害教育専攻	定員30名
第一専攻科	第一専攻科	第一専攻科
第二専攻科	第二専攻科	第二専攻科
第三専攻科	第三専攻科	第三専攻科
第四専攻科	第四専攻科	第四専攻科
第五専攻科	第五専攻科	第五専攻科
第六専攻科	第六専攻科	第六専攻科
第七専攻科	第七専攻科	第七専攻科
第八専攻科	第八専攻科	第八専攻科
第九専攻科	第九専攻科	第九専攻科
第十専攻科	第十専攻科	第十専攻科

法 学 部

本学部は、昭和24年金沢大学法文学部の法学科として創設されて以来、逐年充実され、昭和55年4月法学科を拡充し法学部として発足した。法学部には、法学科が設けられている。

なお、昭和46年に大学院法学研究科（修士課程、法律学専攻、定員15名）が設置されているが、法学部の発足に伴い、更に整備充実が進められる計画である。

卒業生については、司法試験合格者は創設以来すでに100名を超え、近時の合格者数は、国立大学中の上位に位置する状況である。また、国家公務員、地方公務員になる者は、近年30%余に上り、金融機関をはじめ民間一流企業への進出もいちじるしい。

I 講座組織……大講座制の採用

近時、公法や私法などの基幹的分野においてはもとより、経済法、社会保障法あるいは国際関係など新しい学問分野の発展もあり、法律学、政治学の専門的領域は、従前と比較し得ないほど格段に広範かつ多岐にわたっている。法学部においては、かかる研究教育領域の拡大深化と多様化に実質的に対応して十分な機能を発揮するため、研究教育体制については、大講座制を採用した。これは、従来の小講座が研究教育その他種々の面で、隣接講座との横のつながりに欠ける一面があったのを是正し、法学の高度の専門的研究教育とともに、総合性、多様性にも耐え得るものとして、法学の研究教育の水準を高めることを目的としている。

法学部においては、かかる観点から、下記の各特色を有する四つの大講座を置くとともに、主たる授業科目を開講している。

1. 公法大講座

憲法、行政法、国際法、刑法、刑事訴訟法、刑事学の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

憲 法 第 一 部	憲 法 第 二 部	外 国 公 法	行政法第一部
行政法第二部	行政法第三部	行政学	国際法第一部
国際法第二部	国際組織法	刑法総論	刑法各論
刑事訴訟法	刑事政策	特別刑法	犯罪学
比較刑事法	各演習等		

2. 民事法大講座

民法、商法、経済法、民事訴訟法、労働法、社会保障法、国際私法の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

民 法 総 則	物権法・担保物権法	債 権 法 総 論	債 権 法 各 論
親族法・相続法	商法総則・商行為法	社 会 法	手形法・小切手法
保険法・海商法	経済法第一部	経済法第二部	国際私法
民事訴訟法第一部	民事訴訟法第二部	民事執行法	倒 産 法
労働法原理	労働団体法	労働保護法	社会保障法総論
社会保障法各論	雇用保障法	各演習等	

3. 基礎法大講座

法理学、法制史、比較法の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

法 理 学 日本法制史 西洋法制史 東洋法制史
比 較 法 法 思 想 史 各 演 習 等

4. 政治国際関係大講座

政治学、政治思想史、国際関係論、政治社会学の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

政 治 学 原 論 政 治 過 程 論 政 治 思 想 史 国 際 政 治 史
国 際 関 係 論 政 治 社 会 学 各 演 習 等

II 教育体制……二履修コース制と選択的論文指導制度の採用

法学部においては、主として法律関係の科目を必修又は選択必修とするコースⅠと、主として政治及び公法関係の科目を必修又は選択必修とするコースⅡの二つの履修コース制が設けられている。また、学生の志向の多様化に対応するとともに、より綿密な個人的指導による密度の高い教育効果を得るため、選択的論文指導制度を採用する。この二履修コース制、各科目の演習、選択的論文指導制度の活用によって、バランスのとれた専門教育であるとともに、多様化した学生の志向にも対応したきめ細かな専門教育の実をあげ得るよう配慮されている。

◆教育職員免許状

卒業に必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、次の種類・教科の教育職員免許状を取得することができる。

高等学校教諭一種免許状

「地理歴史」、「公民」……………（平成2年度課程認定申請の予定）

中学校教諭一種免許状「社会」

◆大 学 院（修士課程）

法学研究科 法律学専攻 定員15名

経済学部

本学部は、昭和40年に金沢大学法文学部経済学科として発足し、昭和55年4月に法文学部の改組・拡充に伴って創設された若々しい学部である。学部は、1学部1学科制で経済学科が置かれている。

なお、昭和59年に大学院経済学研究科（修士課程、経済学専攻、入学定員9名）が設置されたが、大学院の創設に伴い、更に整備充実が進められる計画である。

経済学部は、現代社会を社会経済的な側面から科学的・総合的にとらえるための社会経済諸科学の学問領域を研究教育することを任務としている。特に複雑な構造をもち、変化の激しい現代社会にあって、この社会の担い手としてますます求められている社会経済的専門知識を身につけた人材を養成する。

学生には、教養部における一般教養教育や本学部の基礎教育科目を土台にして、専門講義の自発的受講、演習での教官や学生相互の自由なディスカッションをつうじて、経済学の学識を深めるだけでなく、広く大学人としての陶冶をおこなう機会が与えられている。

卒業生の多くは、主として民間の企業で活躍しているが、国家公務員、地方公務員、公認会計士になる者や、あるいは教員免許状を取得して、中学校・高等学校の教員として教育界に進出している者も少なくない。

本学部経済学科には、教育研究組織として五つの大講座がおかれており、それぞれの大講座には特色のある多様な授業科目が開講されている。その概要は以下のとおりである。

1. 理論・計量経済学大講座

社会のいろいろな経済現象は、複雑な形態をとって相互に関連しているが、それを整理して体系的に関連づけるためには、経済学の基礎理論と計量的方法とが必要である。このような基礎理論と計量的分析とをもってますます複雑になる経済現象を体系的に究明するのがこの大講座である。

〔主な授業科目〕

経済原論	現代経済理論	近代経済学	計量経済学
統計学	数理統計学	経済統計学	経済変動論
技術論			

2. 経済史学大講座

経済学は、ひろい意味での歴史科学であり、経済史学は、歴史認識に媒介された経済学研究である。この大講座では、歴史学における理論と実証を介して、経済学の成立過程を究明し、世界の諸地域における経済社会の歴史的生成とその展開を研究する。

〔主な授業科目〕

西洋経済史	日本経済史	中国経済史	比較経済史
現代日本経済史	経済学史	経済思想史	社会思想史

3. 応用経済学大講座

社会の経済現象を財政、金融、社会、労働、国際関係などの各分野において、それぞれの領域の理論と現実の両面から研究するのがこの大講座である。基礎理論並びに経済史学の応用としての性格をもっている。

〔主な授業科目〕

財政学	地方財政論	金融経済論	金融制度論
国際金融論	国際経済学	貿易論	世界経済論
社会政策論	社会保障論	労働経済論	労働運動史

4. 経済政策学大講座

経済学の基礎理論、経済史学、更に応用理論をも前提として、現代の経済社会における諸問題の科学的・合理的対策の方法と体系を確立する任務をもっている。特にこれまで軽視されてきた地域経済、環境問題、消費生活問題など国民の生活に密着した分野の研究にとりくむ。

〔主な授業科目〕

経済政策原理	経済政策論	農業経済論	地域経済論
環境経済論	消費経済論	計画経済論	社会主義経済論
日本経済論	流通経済論	都市経済論	

5. 経営・情報科学大講座

経営学は、産業社会における現実の企業を研究対象として体系化された学問である。企業の行動と政策及び情報処理にかかわる諸問題について、企業とそれを取りまく社会経済的環境との関連のもとに、理論的、歴史的、実証的に研究する。

〔主な授業科目〕

経営学総論	経営管理論	経営労務論	企業論
会計学原理	会計監査論	管理会計論	機械化会計
情報科学	システム理論	経営工学	工場計画論
電子計算機論	原価計算論	公会計論	

◆教育職員免許状

卒業に必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、次の種類・教科の教育職員免許状を取得することができる。

高等学校教諭一種免許状

「地理歴史」、「公民」……………（平成2年度課程認定申請の予定）

中学校教諭一種免許状「社会」

◆大学院（修士課程）

経済学研究科 経済学専攻 定員9名

別に経済学部編集・作成の「金沢大学経済学部紹介」を用意しました。

入手を希望される方は返信用封筒（角型3号、250円切手をはり、郵便番号、住所、氏名を明記したもの）を同封の上、下記あて申し込んで下さい。

金沢大学経済学部教務員室

〒920-11 金沢市角間町

TEL (0762) 64-5457

（注）封筒の表に「経済学部紹介請求」と朱書してください。

理 学 部

理学部は、1949（昭和24）年5月金沢大学の創設に伴い、旧第四高等学校及び旧金沢高等師範学校を母体として、数学、物理学、化学、生物学、地学の5学科で発足した。

その後、教育・研究の進展とともに講座数もすでに29に増加し、臨海実験所、低レベル放射能実験施設等の附属施設も設置されている。

1963（昭和38）年には、大学院修士課程として理学研究科（5専攻）が設置された。また1985（昭和60）年度から自然科学系各分野の修士課程を修了した者を広く受け入れ、理学部だけでなく、工学部、薬学部、教育学部、教養部などの自然科学系教官等が一体となって教育・研究を行うユニークな博士課程が発足した。

なお、コンピューター利用の増加に伴い、共通科目として電子計算機基礎論（実習を含む）が開講されている。

数 学 科

数学科は、数学解析、函数論、代数学、幾何学、応用数学、函数方程式の6講座から構成され、多方面にわたり数学の基本的な事柄や一般的理論の研究並びに教育が行われている。本学科では研究、勉学のために図書室の充実と整備及びその運営には特に力を入れており、単行本は、和書洋書合わせて20,000冊以上、論文雑誌は、国内国外発行のもの合わせて300種類以上に及んでいる。

学生に対しては、学部に進学した2年後期から3年前期にわたり数学各分野における基本的な事柄についての講義並びに演習が必修科目として行われる。またこれらに並行して各種の選択科目が3年、4年次が開講され、学生がより深くまたかたよりなく勉学できるよう配慮されている。特に最終学年の4年次には数学講究として、各教官の下で小人数のセミナー形式による密度の高い教育が行われている。

〔主な授業科目〕

数学通論、代数学、幾何学、解析学序論、函数解析学、実解析、函数論、整数論、統計数学、函数方程式論

以上の他に各講座の一つずつ特論が開講されている。

物 理 学 科

物理学科では、自然科学の基礎である物理学の基本的事項を修得し、将来基礎科学の分野を支え発展させる有為な人材を育成することに力をそそいでいる。専門課程では、この目的にそったよう学生は古典力学から始まり、量子力学、熱力学・統計力学、電磁気学等の講義と演習、現象を観測、検証する物理学実験等の科目を3年末までに履修し終り、この期間で物理学の体系についての手ほどきを受ける。最終学年では、選択科目の履修とともに各講座に配属され、それぞれの課題研究（実験やセミナー）において教官とひざを交えた教育をうける。このようにして基礎的学習の一層の充実と、更に分化発展しつつある諸分野での専門知識と活用力を身につける。

物理学科には、理論系として素粒子論、核物理、物性理論、実験系として結晶物理、物性物理、プラズマ物理、分子物理の各講座がある。理論系では、素粒子論、宇宙論、相転移や液体についての統計力学の理論や計算機実験等の研究、実験系では、金属・半導体・誘電体の物性、

生命の起源と生体分子進化、生体高分子機能、核融合にも結びつくプラズマやイオン加速、レーザー及び核磁気共鳴による分子や固体の構造等についての実験研究と教育が進められている。

学生の進路は、上記の学習が生かされるような、大学院研究科への進学、企業における開発研究の部門や教育界への進出が主なものである。

〔主な授業科目〕

物理実験学、力学、電磁気学、熱力学・統計力学、物理数学、量子力学、流体力学、量子光学、原子物理学、素粒子論、物性物理学、生物物理学、プラズマ物理学、宇宙物理学

我々の身体をはじめ周囲のすべての物質、更に自然界を構成するすべての物質の本質とそこにひそむ基本原理を学ぶのが化学であり、化学科は、化学の最も基礎的な分野を学ぶ学科である。現代の化学はめざましい発展を遂げ、その研究分野の細分化が進んでいるが、本学科は、それに対応する7講座で構成され、整備された設備と充実した教官のもとで学生の教育と研究が行われている。

教育面においては、2年生後期から始まる専門教育での1か年半の講義（28科目）と基礎実験（7科目）を通じ、今日の化学全般にわたる基礎学習が行われ、4年生の1年間は、それぞれ希望する講座に配属して自主的な勉学態度と創造的能力の養成に重点をおいた指導のもとに課題研究と文献指導が活発に行われている。

研究面においては、分子および結晶構造、分子理論の研究（理論化学講座）、有機合成反応の開発と天然有機化合物の合成、および分子構造の研究（有機化学講座）、無機化合物（主として金属錯体）の合成と化学反応、物性の研究（無機化学講座）、物質の分離、分析法、環境化学の研究（分析化学講座）、酵素、タンパク質化学の研究（生物化学講座）、核化学と原子核反応がかかわる宇宙地球化学・環境放射能の研究（放射化学講座）、遷移金属錯体の合成とその構造、反応性、光学活性に関する分光学的研究（錯体化学講座）などを中心とする創意に満ちた特色ある研究が活発に行われ顕著な業績をあげている。また、本学の他学部、他学科並びに附属施設（低レベル放射能実験施設、アイソトープ総合センター、総合情報処理センター等）や他大学の施設を利用した教育研究も盛んに行われている。本学科の卒業生の多くは、本学又は他大学の大学院に多く進学し、また、一方では化学関連産業分野、官公庁において研究者、技術者、教育者として幅広く活躍している。

〔主な授業科目〕

理論化学、有機化学、無機化学、分析化学、生物化学、放射化学、錯体化学、化学文献指導、化学課題研究、各科目にわたる実験

生 物 学 科

生物学科は、現在5講座からなるが、これを大きく二つの系列に分けることが出来る。一つは植物生理生化学、動物生理生化学及び発生生物学の諸講座に示される生理・生化学的学問の分野であり、いま一つは植物自然史及び生態学講座で示される自然史的学問の分野である。

近年の高分子化学や生化学の発展は、生命現象を分子のレベルで解明する道を開き、分子遺伝学を頂点とする新しい生命科学の展開をみているが、このような方向に沿ったのが前者の講座群である。一方生物学で忘れてならない方向として、自然の観察に始まる自然史的研究分野がある。これは、自然状態での生物の形態あるいは生態について、観察・実験の精度を高め、

〔主な授業科目〕 学成平量・学成思辨、学成福識・学成熱、学成道量、学成、学成実思辨

地 学 科 理 論 の 基 礎 と 量 の 学 び , お 科 学 的 な 探 究 の 方 法 を 学 ぶ

卒業生は、本学あるいは他大学の大学院に進学する者も多いが、地質コンサルタント会社をはじめとする地学関連産業はもとより、セラミックスなどの材料科学関連産業、コンピュータ産業において技術者として、あるいは官公庁における研究者として活躍している。

〔主な授業科目〕

◆教育職員免許状 取得する教職科目等の科目を3年未満までに履修し終り、この期に卒業生

卒業に必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、それぞれの教科について次の種類の教育職員普通免許状を取得することができる。

高等学校教諭一種免許状	}	「数学」… (数学科, 物理学科)
中学校教諭一種免許状		

定員

◆大 学 院（博士課程）

自然科学研究科の項（95 ページ参照）に記載

医学部

医学部の前身は、遠く旧加賀藩時代の文久2年3月の彦三種痘所にその源を発し各学部中最も古い歴史をもっている。慶応3年の養生所、明治3年の医学館、明治12年金沢医学校、明治17年文部省指定石川県甲種医学校、明治20年第四高等学校医学部、明治27年第四高等学校医学部、明治34年金沢医学専門学校、大正12年金沢医科大学と幾多の変遷を重ね、昭和24年金沢大学の創設により医学部となり、附属病院、神経情報研究施設及び動物実験施設等の附属施設を有して現在に至っている。

医学部の修業年限は、医学進学課程は2年、専門課程は4年である。専門課程における4年間は、小立野の医学部と附属病院で前2年間に主として基礎医学を、後2年間に主として臨床医学の専門教育を行う。

前2年間における基礎医学の学修は、人体の構造組織・生理機能の正常状態を観察し、それが病的状態ではいかなる変化を起こすかを学び、また、それらの病的変化を起こす原因となる化学物質や微生物、更にその病的状態を正常化する薬物などの基礎的知識を学ぶ。また、特に系統解剖学実習は、故人の意志と遺族の善意によって医学教育のために献体されたものにより行われる。後2年間における臨床医学は、基礎的知識をもとにして実際に外来・入院の患者について指導を受け、討論を行うことによって臨床知識や経験を積み重ねる。いずれにしても医学教育は、人間の生命を扱い人権問題にからむ特殊条件を含むため、医学を志望する者はこの点十分留意する必要がある。

6年間の課程を修了した者は、医学士の称号が授与され、卒業後、医師国家試験に合格することにより医師の免許が得られる。

〔主な授業科目〕

解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、微生物学、寄生虫学、衛生学、公衆衛生学、法医学、内科学、神経精神医学、小児科学、放射線医学、核医学、皮膚科学、外科学、整形外科、脳神経外科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、産科婦人科学、麻酔・蘇生学、臨床検査医学、歯科口腔外科学、特別講義（年度ごとに定める）

◆大学院（博士課程）

（主な授業科目）		定員
医学研究科	生理系専攻	25名
	病理系専攻	11名
	社会医学系専攻	6名
	内科系専攻	17名
	外科系専攻	19名
計		78名

薬学部

薬学は、時代とともに変貌する疾病に対し、有効でかつ安全な医薬品を開発、創製、生産及び管理し、更に、自然科学を広く総合的に活用し、生命現象を探究する学問分野である。医薬品は、かつて難病、不治の病と言われた多くの疾病の予防、治療を可能にし、今日では人間の生命の維持、保健衛生や健康の増進のために欠かすことのできない貴重な人類の宝である。本学部は、このような薬学の理念を実践し、国民の健康増進、社会福祉の向上という社会的責務を担う医薬品専門家としての研究者及び技術者の養成を目的としている。

○薬学部の沿革

薬学部の歴史は、旧加賀藩時代の慶応3年養生所舎密局が設けられた時に源を発し、幾度かの変遷を経て大正12年に金沢医科大学附属薬学専門部となり、昭和24年5月金沢大学創設とともに薬学部として発足した。更に、昭和41年従来の薬学科に加えて製薬化学科が増設され、昭和44年には薬用植物園研究施設も附置された。また、大学院については、昭和39年に薬学研究科修士課程が設置された後、博士課程の設置に努めてきたが、昭和60年にいたって、本学部のみならず教育学部、理学部、医学部、教養部、がん研究所などの教官が一体となって学生の指導にあたる、全国的にもユニークなシステムの大学院博士課程が設置された。この博士課程は、修士課程を修了した者が更に勉学を続けるための3年の課程で、昭和62年4月に、金沢大学大学院自然科学研究科として独立した。

○薬学部における研究

本学部の両学科では、それぞれの理念に基づきライフサイエンス（生命科学）に関連する先端の知識・技術を駆使して、下記に例示する研究が行われ、その成果が教育に活かされている。

薬学科：薬理活性化合物の合成と開発、生体成分分析法の開発、金属錯体の構造と機能、オルガネラから見た生体制御機構とその異常の解明、寄生虫疾患に有効な天然薬物の開発、糖及び糖質化合物の合成と薬理活性、平滑筋の収縮に関する比較薬理学、染色体DNAの複製開始及びその遺伝情報の発現調節機構、環境物質の分析法と動態など。

製薬化学科：天然有機化合物を利用した生理活性化合物の合成、薬剤の吸収・分布・代謝・排泄の機構、超高速分光による化学反応の動力学、含窒素複素環及び転移りボ核酸関連物質の合成と反応、クロマチンの構造と機能、放射線・薬剤等によるDNA損傷とその修復及び細胞がん化機構など。

○教育とカリキュラム

本学部におけるカリキュラムでは、専門課程における2年次の授業は、薬学の基礎学力をつけるために有機化学、物理化学並びに生物科学などの基礎的な科目を学科の別なく履修し、3年次の授業は、生物系、化学系、医療衛生系の3コースに分かれて受講することになっている。

生物系コース：諸々の物質と生体のかかわりを生物の側から深く考えるように設定されているコースで、薬学科の学生が履修できる。

化学系コース：生命にかかわりのある物質を化学的あるいは物理化学的側面から探求するコースで、製薬化学科の学生が履修できる。

医療衛生系コース：医療、公害、食品、環境衛生などの分野を専攻するコースで、いずれの

学科の学生も履修することができる。

原則として3年次の授業は、この3コースに従って行われるが、いずれのコースに所属する者も他系のコースの科目を履修することができるように時間割上の配慮が払われているので、他系の科目を選択受講することによって学生の志向に合致した勉学を行うことができる。また専門科目の実習に多くの時間がさかれており、基礎的な実験技術の修得にあてられている。

4年次は、学科にかかわらず数名の小グループとなって各研究室に所属し、具体的な研究テーマのもとに研究活動を行い、将来更に独自の研究を展開出来るように、また、自然科学的な考え方と技術を身につけたすぐれた薬学専門家となるように man-to-man の教育と指導が行われる。

授業科目は、次のとおりである。

必修科目：有機化学Ⅰ・Ⅱ、物理化学Ⅰ・Ⅱ、無機化学、薬学概論、機能形態学、分析化学Ⅰ・Ⅱ、生薬学、生化学Ⅰ・Ⅱ、解剖学、薬理学Ⅰ・Ⅱ、放射化学、薬用植物学、衛生化学Ⅰ、薬剤学Ⅰ、薬局方、薬事法

各コース別選択科目

生物系コース：分子生物学、生化学Ⅲ、生理学、推計学、医薬品化学総論、放射線生物学、細胞生物学、微生物学、毒性学、薬物治療学、衛生化学Ⅱ、薬剤学Ⅱ、内分泌学、免疫学

化学系コース：医薬品化学Ⅰ・Ⅱ、物理化学Ⅲ、合成化学、反応有機化学、生体成分化学、天然物化学、機器分析学、有機量子化学、錯体化学、立体化学、工業化学概論、化学工学概論、電子機器概論

医療衛生系コース：生化学Ⅲ、生理学、推計学、医薬品化学総論、公衆衛生学、環境衛生化学、微生物学、毒性学、薬物治療学、衛生化学Ⅱ、薬剤学Ⅱ、製剤学、調剤学、裁判化学、臨床化学、医薬情報学

○卒業後の進路

本学部卒業生には、大学院へ進学して研究者、教育者となる者、国公立の行政・研究機関、保健所に就職する者、病院、薬局、製薬会社あるいは化学工業、香粧品、食品の業界へ進む者などがおり、その進路は多方面に及んでいる。

○資格

本学部卒業生には、学科の別なく薬剤師国家試験受験資格が与えられ、この試験に合格すれば薬剤師となることができる。

◆大学院（修士課程）

定員

薬学研究科 薬学専攻 14名

製薬化学専攻 12名

計 26名

◆大学院（博士課程）

自然科学研究科の項（95ページ参照）に記載

工 学 部

本学部は、大正9年創設の旧金沢高等工業学校、旧金沢工業専門学校を母体とし、昭和24年の学制改革によって5学科により発足した。

その後、急速な科学技術の進歩とともに増学科、増講座など組織の充実が重ねられ、さらに、昭和58年度から昭和62年度にかけて従来の9学科1教室が統合改組されて、現在は土木建設工学科、機械システム工学科、物質化学工学科、電気・情報工学科の4学科及びその基礎的分野を担当する共通講座により構成されている。最近の工学は、一方では各専門分野の極度の専門化による発展と、他方では理学と工学並びに工学各専門分野の相互作用による進歩とがあることを認識し、本学部では、絶えずカリキュラムの内容刷新に努力し、学生諸君に新しい工学の基礎と、応用展開能力が身につくよう努力している。また、大学院については、昭和40年に工学研究科修士課程が設置され、その後も博士課程の設置に努めてきた結果、61年度に物質科学系、62年度にはシステム科学系の大学院自然科学研究科博士課程が設置されている。この博士課程は、自然科学系各分野の修士課程を修了した者等を広く受け入れて、工学部のみならず理学部、薬学部、教育学部、教養部等の本学の自然科学系教官が一体となって教育研究を行う全国的にもユニークなシステムの博士課程である。授業科目については要点のみ掲げるが、各学科の主な内容は以下のとおりである。

土木建設工学科

土木建設工学科は、六十余年の伝統を持つ土木工学科と昭和50年に都市環境を軸として新設された建設工学科とが、新時代に対応するため昭和60年度に統合した土木系学科である。

さて、土木建設工学は、人類の文化を支え、近代文明を推進してきた最も歴史の古い学問であり、かつ、安全で快適な国土づくり・都市づくりに寄与する技術者を育成することにより、未来の豊かな人間社会を築くための原動力となる学問である。それゆえ、土木建設工学は、人間の生活に密着した学問として、自然科学、社会科学、人文科学等のあらゆる分野と深い関連を持ちながら、広範囲かつ精緻に発展していかなければならない総合的工学である。

この認識に立ち、本学科では、近年社会的あるいは技術的にその必要性が高まっている土木建設系技術分野の拡充と発展、ハードとソフトの分野及び他の工学分野との連携を進めることにより、国土整備、資源開発、都市建設、運輸交通施設、環境保全、災害防止、居住環境整備、景観整備など、大地と海洋と人間社会を対象とした施設構造物の計画、設計、建設、運営、管理に携わる技術者の育成を行い、行政官（政府各省庁、各地方自治体）、公団や建設業技術者、コンサルタント、教育者、研究者等へと進む人材を養成している。

本学科は、構造工学、水工学、地象工学、都市施設計画学、環境衛生工学の5大講座で構成され、広い視野と広範な应用能力を持つ技術者の教育と養成を行っている。

〔主な授業科目〕

構造力学、水理学、土質力学、計画基礎数理、環境基礎科学、移動現象論、測量学、土木材料学、鉄筋コンクリート工学、建設機械施工法、地盤基礎工学、橋梁工学、河川・水文学、海岸海洋工学、上下水道学、道路工学、耐震耐風工学、防災水工学、動力学、都市計画、地域計画学、運輸施設工業、土木建設計画学、数理計画学、環境装置工学、電子計算機プログラミング、土木情報処理学、土木建設工学設計法、土木建設工学実験、卒業研究

機械システム工学科

機械システム工学科は、常にあらゆる工業において基幹となってそれを支えている学問である。近年の産業及び科学技術の発展に応じ、機械システム工学科は、大正10年創設の機械工学科、昭和35年創設・58年改組の生産精密工学科、昭和42年創設の機械工学第二学科の機械工学関連の3学科を、昭和62年に統合改組した古くて新しい学科である。

本学科は、主として設計分野に重点をおく機械解析講座（固体力学、機械力学、機械構造解析）、機械材料講座（金属材料、塑性工学）、機械設計講座（強度設計、要素設計、機構設計）の3大講座、主として生産分野に重点をおく自動機械システム講座（精密システム創造学、ロボット及び自動機械）、生産技術講座（計測・制御工学、精密システム材料学、トライボロジ）、生産システム講座（生産加工学、機械製造システム）の3大講座、そして主として動力分野に重点をおく機械回路講座（回路解析、機械制御）、エネルギー変換講座（熱移動、流体工学、熱・流体エネルギー変換）、エネルギー機械講座（熱機関、流体機械、動力システム）の3大講座、計3分野の9大講座で構成され、機械システム工学の全ての分野を網羅している。学生は、これら3分野に広がる多彩な授業科目群から希望と適性に応じ、基礎から応用まで幅広く選択できる。

旧3学科の卒業生の広い分野における活躍も目覚ましく、本学科は、創造性と応用性に富み、時代の進展に即応できる活力に満ちた多くの技術者・研究者の育成を目指している。

〔主な授業科目〕

材料力学、構造解析学、機械振動学、生物・人間工学、金属学、鉄鋼材料学、塑性学、新素材工学、機械要素設計、材料強度、機構運動学、繊維機械、精密機器設計学、自動機械、メカトロニクス概論、ロボット工学、計測工学、自動制御、材料機能学、トライボロジ、潤滑工学、基礎加工学、システム加工学、製造システム論、生産機械、切削加工学、制御工学、制御機器、伝熱工学、エネルギー変換工学、流体力学、熱力学、内燃機関、動力システム工学、流れ学、流体機械、機械システム設計製図、機械システム工学実験及び実習、計算機プログラミング演習、卒業研究

物質化学工学科

物質化学工学科は、工業化学科（大正10年創設）と化学工学科（昭和14年創設）が新しい時代の科学に十分貢献できるよう統合改組し、昭和61年度から発足した。

最近の化学に関する理論と技術の急速な進歩の恩恵を受けて、我々の実生活はますます豊かさを加えてきた。これは、いろいろな優れた働きを持つ新しい素材の発見とその生産プロセスの著しい改良と工夫、高度分離技術、エネルギー変換と有効利用技術、バイオテクノロジー、環境保全などの多岐にわたる分野での研究と技術開発のたまものである。そして今後これらの分野でも開発研究の重要さはますます増大していくであろう。

この社会的ニーズに答えるため、本学科は、従来の工業化学及び化学工学のそれぞれの学問領域に止まらず、幅広い視野と見識を持つ技術者や研究者の養成をめざし、物質解析講座（物質の構造や挙動の解明）、状態解析講座（平衡論・速度論などの物質の性状と挙動）、物質変換講座（反応の開発と制御並びにエネルギー変換の化学）、分離・混合プロセス講座（化学プロセスでの物質の分離・混合操作）、応用材料講座（機能に富んだ素材の開発）、エネルギー・環境講座（エネルギー、生物、環境などのプロセスの応用）の6大講座により学生の教育と研究を

行っている。学生は専門課程進学後、化学を中心とした分野Ⅰ（物質解析、物質変換、応用材料）および物理学・化学の双方に関連した分野Ⅱ（状態解析、分離・混合プロセス、エネルギー・環境）の科目群から、いずれかの分野の科目を主に選択して履修し、きめ細かな教育・指導を受ける。

これまでの両旧学科の卒業生の活躍は広範囲にわたっており、化学工業のみならず、機械、エレクトロニクス、情報、医療・医薬品などの各産業の研究所、開発部門の他、官公庁にも及んでいる。大学院への進学志向も近年高まり、修士課程には、多くの学生が進学しており、更に、博士課程への道も開かれている。

人類のますます豊かな生活に貢献しようとしている物質化学工学科で、科学技術者としての遠大な夢を育て、実現されるよう期待している。

〔主な授業科目〕

物理化学、分析化学、熱力学、化学工学物性、移動速度論、有機工業化学、無機工業化学、エネルギー資源化学、分離操作、流体工学、精密分離工学、材料科学、高分子化学、バイオマテリアル、反応工学、伝熱工学、環境動態解析、化学プロセス設計法、物質化学工学実験、卒業研究

電気・情報工学科（電気・電子・情報系）

近年、マイクロエレクトロニクス、電子計算機、通信システム等における急速な技術革新により新しい産業構造や社会形態が作られつつある。電気・情報工学科はこれらの最新技術を効率よく教育し、かつ独創的研究を促進するため、電気工学・電子工学・情報工学の各分野を包含した学科である。2年次では各分野共通の基礎的学問を重点的に修得し、3年次からは各自の希望に応じて学問分野を選択できる。卒業研究は、教官の指導のもとに行っており、大学院生と共同で世界先端の研究テーマに挑む学生も少なくない。本学科の一つの特色は、研究活動が活発なことであり、半導体物性、半導体素子、集積回路、半導体レーザと光通信、デジタル計算機システム、信号処理、情報処理、自動制御システム、ロケット・衛星を利用した超高層計測、レーザや光ファイバーを応用した計測、医用電子計測、電力伝送及び電力変換などの分野で幾多の研究成果をあげて来ている。卒業生は、電気、電子、情報産業を中心に広い分野で活躍している。

なお、本学科は、電子物性、電子デバイス、電子回路、計測・制御、電気エネルギー、計算機工学、情報伝送の7大講座で構成され、本学科に関連した電気エネルギー変換実験施設も工学部に附置されている。

〔主な授業科目〕

電気回路、電子回路、電気磁気学、電磁測定、論理回路、制御理論、電気エネルギー変換工学、電気エネルギー伝送工学、磁気工学、高電圧工学、気体・プラズマ工学、電気機器学、半導体工学、量子力学、電子物性、電子デバイス、光波工学、電気電子材料、集積回路工学、デジタルシステム、電子計算機、オペレーティングシステム、計算機言語論、情報理論、パターン理解、画像工学、信号処理、電気音響工学、伝送回路、光・マイクロ波伝送、電波工学、通信方式、情報ネットワーク、電気・電子・情報工学実験、卒業研究

共通講座（基礎工学教室）

本学部には、以上の各学科に共通する基礎科目を担当するため数理科学及び材料科学の2大

講座がある。

〔主な授業科目〕

工業数学及び演習、応用解析及び演習、工業力学、熱・統計力学、固体物理学、量子物理学、情報数学、情報処理工学、計算機概論、数値解析、数理計画学、確率統計、高分子材料学、信頼性工学

◆教育職員免許状

工業教員養成課程の学生は、全学科所定の授業科目以外に職業指導4単位を必ず履修しなければならない。これにより高等学校教諭一種免許状「工業」が取得できる。(卒業後教員になる義務はない。)

工業教員養成課程以外の者でも職業指導4単位を履修した者は、高等学校教諭一種免許状「工業」が取得できる。

◆大学院(修士課程)

定員

工学研究科 土木建設工学専攻 18名

機械工学専攻 14名

物質化学工学専攻 20名

電気・情報工学専攻 20名

精密工学専攻 8名

機械工学第二専攻 8名

計 88名

◆大学院(博士課程)

自然科学研究科の項(95ページ参照)に記載

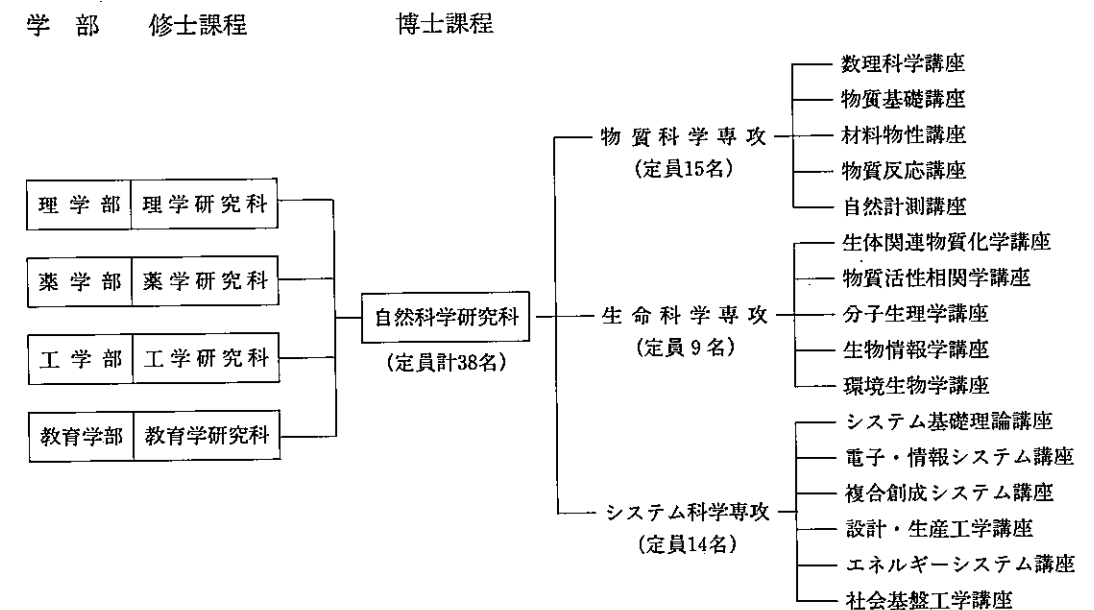
大学院自然科学研究科

◆大学院(博士課程)

大学院自然科学研究科は、大学院修士課程(2年)を修了した者(※1)が、更に高度な専門知識と自立した研究能力の修得を目指して勉学する大学院博士課程(3年)である。この研究科は、今日の自然科学が進歩するには、ますます多くの研究分野の知識や相互協力が必要になってきていることから、専門知識はもとより関連分野にも広い知見をもった応用力豊かな人材を養成することを目的として、昭和62年に本学に設置された。この研究科を修了した者には、博士の学位(※2)が与えられる。

この研究科の教育研究は、本学の理学部、薬学部、工学部、教育学部、教養部などから多数の自然科学系教官が参加しており、それら多数の専門分野が総合され、協力しあって上記の目的にふさわしい教育方法をとっている。この形の大学院博士課程が、ときに総合大学院とよばれるのは、このためである。

この研究科には、次の3専攻(16講座)が置かれている。上記の学部等から、修士課程に進み自然科学の基本を修めた者は、自分に最も適した専攻(講座)を選んで入学することができる。



この研究科は、本学以外の大学院修士課程修了者にも広く門戸を開いており、また社会人(※3)や外国人留学生も積極的に受け入れている。

※1 大学卒業後、修士課程に進まず就職した者などが、職場での研究活動等で修士課程修了者に匹敵する業績をあげているときは、自然科学研究科の入学の出願資格を認める場合がある。

※2 学術博士を授与する。ただし、学位論文及び履修した授業科目の内容によっては、理学博士、薬学博士、工学博士のいずれかを授与する。

※3 在職のままで入学することが可能な場合がある。

電話 (0762) - 21-1147

この学生募集要項を希望する者は、返信用封筒（角型 3 号，360 円切手をはり付け，受信者の郵便番号，住所，氏名を明記したもの）を同封の上，下記あて申し込むこと。

〒920 金沢市丸の内 1 番 1 号
金沢大学学生部入学主幹付入学試験係
TEL (0762) 62-4281 内線 290

平成3年度学生募集人員の 変更について

平成3年1月

金 沢 大 学

本学の学生募集要項はすでに発表したが、その募集人員を下記のとおり変更する。

記

1 変更の内容

学部・学科	日 程	当初の募集人員		変更後の募集人員	
理学部 地学科	前期日程	20	⇒	28	
	後期日程	5	⇒	7	
計		25	⇒	35	

2 選抜方法

変更後の募集人員についての入学者選抜方法等は、すでに発表した「平成3年度金沢大学学生募集要項」のとおり行う。

以 上

本 件 照 会 先

金沢大学学生部入学主幹付入学試験係
〒 920 金沢市丸の内1番1号 電話 (0762)62-4281 (内線 290)